

第 3 8 回 明 石 市 環 境 審 議 会 次 第

平成 21 年 8 月 17 日 (月) 午後 3 時～5 時
サンピア明石 5 階 フロイデホール

1. 開 会

2. 事務局報告

資料 1 「明石市環境審議会委員名簿」

3. 平成 20 年度年次報告書について

資料 2 「平成 20 年度 年次報告書について」

別紙 「明石市環境レポート 2 0 0 9 (素案)」

4. 自然環境部会の活動報告について

資料 3 「生物多様性戦略 (基本計画) の検討について」

5. その他

明石市環境審議会委員名簿

No	氏名	役職等	備考
1	中野加都子	神戸山手大学現代社会学部環境文化学科教授	会長
2	藤原 健史	岡山大学大学院環境学研究科教授	副会長
3	碓井 信久	兵庫・水辺ネットワーク（NGO）幹事	部会員
4	角野 康郎	神戸大学大学院理学研究科生物学専攻教授	部会長
5	川下 章	公募市民	
6	工藤 和美	明石工業高等専門学校建築学科准教授	部会員
7	塩野 勝	エコウイングあかし会長	
8	柴田 達三	明石商工会議所会頭	
9	竹重 勲	公募市民	
10	服部 保	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科教授	部会員
11	古川 正文	兵庫県東播磨県民局県民室環境課長	
12	丸谷 聡子	公募市民	部会員
13	森脇 馨	兵庫県加古川流域土地改良事務所 主幹兼農村計画第1課長	部会員

※ 五十音順（敬称略）

平成 20 年度 年次報告書について

1 年次報告書について

年次報告書は、環境基本条例（明石市の環境の保全及び創造に関する基本条例）第 18 条の規定に基づき、環境基本計画の適正な進行管理を図るため、毎年、環境の状況及び明石市が環境の保全及び創造に関して講じた施策の状況等についての報告書を作成し、公表するものです。

また、同条第 2 項において、年次報告書について環境審議会の意見をお聞きし、ご意見の趣旨を尊重して、必要な措置を講じることになっています。

2 昨年度までの年次報告書について

昨年度から、年次報告書及びその概要版である環境レポートを 1 本化し、より読みやすく分かりやすい年次報告書の作成に取り組んできました。

環境審議会に素案を提出して諮った後、案を公表して市民意見を募集し、平成 20 年 12 月末日に、市ホームページ等で公表しました。

3 平成 20 年度 年次報告書の考え方について

今年度についても、読みやすく分かりやすい内容の報告書作成に取り組みました。昨年度の報告書は、各項のつながりが分かりにくいとのご意見がありましたので、「めざす環境像」実現のための取り組みを図に示し、その中で報告書の該当ページを記載しています。

また、「第 5 章 明石市環境マネジメントシステム」では、市役所の各部署の取り組みの具体例を紹介し、あわせて昨年から巻末に掲載している事業評価表について、取り組み部署及び達成度を明記するように改めています。

審議会でのご意見による修正後、市民からのご意見も募り、最終的にはデザイン等も修正したうえで、印刷物として公表する予定です。

4 年次報告書（環境レポート 2009）について

別紙「明石市環境レポート 2009(素案)」を参照願います。

5 今後の予定について

8 月下旬 「明石市環境レポート 2009(案)」を HP で公表し、市民意見を募集
10 月 「明石市環境レポート 2009」、「市民意見とその措置対応」を公表

明石市 環境レポート 2009 (素案)

平成20年度 年次報告書



修正予定

平成20年 1月

明石市長
北口寛人



もくじ

1	報告書をご覧くださいにあたって	2
2	明石市のめざす環境像	3
3	めざす環境像を実現するために	4
4	リーディングプロジェクトの取り組み状況	5
5	明石市環境マネジメントシステム	11
6	自然環境再生への取り組み	17
7	地球温暖化対策実行計画の取り組み	19
8	環境首都コンテストへの取り組み	22
9	平成20年度の事業評価表	23

添付 読者アンケート

※ 表紙は、平成20年度の第15回環境ポスターコンクールで入選した、二見西小学校 横山 佳香さんの作品です。

明石市環境方針

明石市は、地球環境と調和した人と自然との共生を確保し、循環を基調とする持続可能な社会の実現のため、次に掲げる方針にもとづいて環境の取り組みに率先して行動します。

- 1 市民、NPO、事業者とのパートナーシップにより、明石市環境基本計画に基づく環境施策を推進します。
- 2 環境マネジメントシステムの推進により、行政経営の改善を目指します。
- 3 環境目的及び環境目標を定め、定期的な見直しを行いながら、汚染の予防に努め、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 4 省エネルギー・省資源、グリーン購入などエコオフィス活動に取り組みます。
- 5 公共事業については、積極的に環境に配慮します。
- 6 事務事業の推進や施設管理にあたっては、環境関連法令等を遵守します。
- 7 市職員は、環境方針を理解し、環境への認識を深め、環境保全活動を継続的に進めます。
- 8 環境方針及び環境マネジメントシステムに基づく活動結果を広く公表します。

平成16（2004）年7月1日
明石市長 北口寛人

明石市環境レポート2008（年次報告書） お問い合わせ先

明石市環境部地球環境課 〒673-0882 明石市相生町2丁目5-15（保健センター4階）
Tel：078(918)5029 Fax：078(918)5107
e-mail：plan-ems@city.akashi.hyogo.jp

1 報告書をご覧いただくにあたって

編集方針

平成20年度から平成21年度にかけての、明石市の環境に関する情報を掲載しています。対象は、市（行政委員会の事務局を含む）の環境施策と事務事業です。

本報告書には、皆様のご意見をいただくためのアンケート用紙を添付しています。記載内容や明石市の環境活動に関してのご意見、ご感想を頂けましたら幸いです。

皆様とのコミュニケーションを深めながら、ともに地球にやさしい社会の実現に貢献していきたいと考えています。

主な関連資料の一覧、入手方法

●環境事業概要

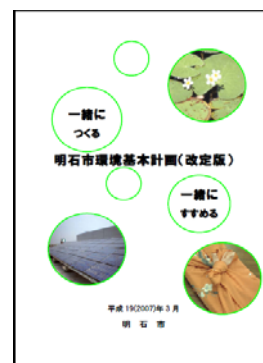
明石市の環境行政に関する組織、事業、予算、計画、環境美化整備、環境保全対策、し尿、ごみの減量化・資源化及びごみの収集・処理などの各種統計を記載しています。昭和55年から発行しています。



●明石市環境基本計画（平成19年3月改定版）

環境基本計画は、長期総合計画と連携して明石市の望ましい環境像の実現をめざすマスタープランです。

環境基本条例に基づき、まちの特性を考慮しながら、環境全般の取り組みの基本になる考え方、めざす環境像、取り組みの内容を示しています。また、市民、事業者、行政それぞれの役割を明らかにしています。



●明石市環境部地球環境課Webサイト「エコイスト」

この報告書に掲載していない詳細情報や、明石市の環境に関する各条例・計画、明石市の環境の現況、環境管理マニュアルなどをHPで公開しています。



明石市地球環境課 クリック！

地球環境課Webサイト「エコイスト」

(URL) http://www.city.akashi.hyogo.jp/kankyou/earth_kankyou_ka/ecoist/index.html

2 明石市のめざす環境像

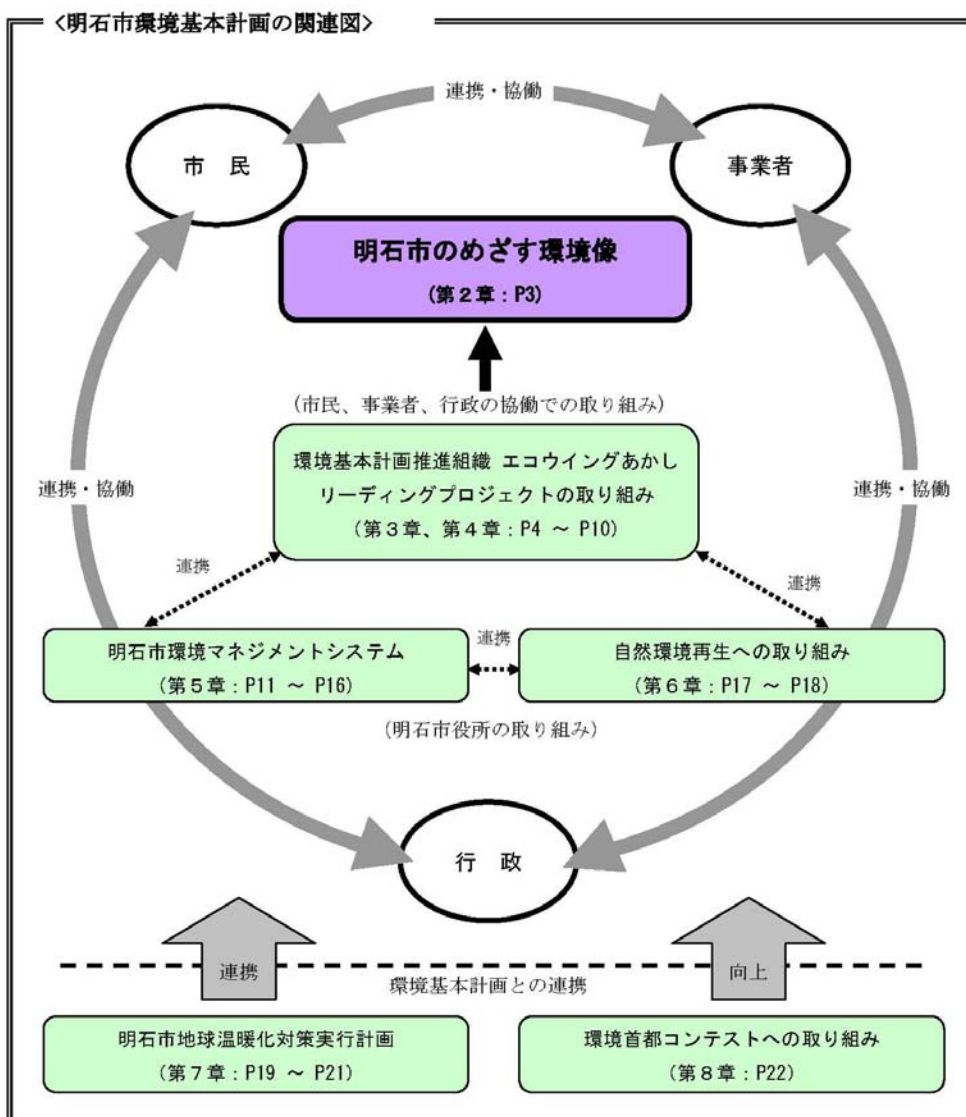
明石市環境基本計画で定める明石市の「めざす環境像」は、“おだやかな風土の中で、人々が互いに手を取り合い、地球環境から身近な自然までを大切にしながら、昔のくらしのよさを受け継ぎ、豊かな未来への夢を 100 年先までも持ち続けていきたい” という市民の想いを表しています。

水辺や里山は光に映え、まちには人々がにこやかに集う
人と人々が思いやり、地球のすべてをいつくしむ
古(いにしえ)に想いをはせ、未来への希望が輝き続けるまち

明石市のめざす環境像を実現するための推進体制

明石市の「めざす環境像」を実現するためには、市民、事業者、行政の各主体での取り組み、協働の取り組み、そして推進する体制が必要です。

以下の図に、市民、事業者、行政の関連と、この報告書の記載ページを記します。



3 めざす環境像を実現するために

エコウイングあかし（明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会）

「エコウイングあかし」は、明石市のめざす環境像を実現するために、環境基本計画を推進するための組織です。市民、事業者、行政の三者が協働して、環境基本計画に掲げるリーディングプロジェクト（LP）に取り組んでいます。

エコウイングの「エコ」は環境一般を表し、「ウイング」は翼を表します。エコの風が大きく翼を広げ、市民、事業者、行政をつないで明石に広がるイメージとともに、東西に長い明石の地形も表しています。



リーディングプロジェクト（LP）

市民、事業者、行政が協働して実践する、環境基本計画の中の先行的な取り組みです。13項目のプロジェクトがあり、ライフスタイル、エネルギー、自然の3つに分類されます。

「エコウイングあかし」では、3つの分類ごとにグループで活動しています。各グループのリーダー、サブリーダーは概ね月1回集まり、エコウイングあかし全体の課題について検討する「企画運営委員会」を開催しています。

エコウイングあかし・平成20年度の主な取り組み

●エコウイングあかし環境セミナー「環境学習都市のひみつ」（平成20年4月23日）

NPO法人こども環境活動支援協会（LEAF）事務局長の小川雅由氏を講師に招き、環境セミナーを開催しました。

テーマは、市民・事業者・行政の「つながり」です。市民、市職員合わせて約70名が熱心に耳を傾けました。



●第2回 エコウイングあかし総会（平成20年5月11日）

会員58名（うち28名委任状）が出席して、第2回総会を開催しました。

総会后、立命館大学准教授の永橋為介氏によるワークショップ「パートナーシップのための基礎体力をつくる」を実施し、会員同士がパートナーシップについて話し合いました。



●市主催行事の共催、後援

- ・エコロジーミュージカル「ホープ・ランド」（後援・平成20年7月25日）
- ・あかし打ち水大作戦2008（共催・平成20年8月13日）
- ・あかし環境フェア2008（共催・平成21年3月8日）

4 リーディングプロジェクトの取り組み状況

ライフスタイルのグループ

●ライフスタイルに関するリーディングプロジェクト

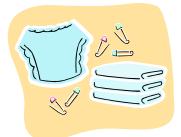
LP1. あかし環境マイスター制度

環境資格制度の合格者「環境マイスター」の活動でごみの減量などを進めます。



LP2. 暮らしの知恵伝承プロジェクト

風呂敷や布おむつなど、知らなかった暮らしに役立つヒントをみんなで教えあいませんか。



LP3. グリーン購入推進プロジェクト

毎日の買い物で、地球環境にやさしいことができます。その方法を明石市内に広めましょう。

平成 20 年度の取り組み状況

●プロジェクト推進のための会議開催（計 8 回開催）

●布ぞうり教室の開催、活動のPR

「布ぞうりはエコでお得」をテーマに、自宅で使わなくなった古着・古布を活用した布ぞうりづくり教室を開催しました。

平成 20 年 11 月、平成 21 年 2 月にはエコウイングあかしの会員を対象に、3 月には市民を対象に教室を開催しました。参加者は、熱心にオリジナルの布ぞうりづくりに取り組みました。



平成 21 年 3 月 8 日には、「あかし環境フェア 2008」にブースを出展しました。ブースでは、①古着でつくった布ぞうり約 60 点を木のオブジェに展示、②布ぞうり教室の参加受付、③つくり方のデモンストレーションを実施しました。

昔の暮らしの知恵を生かして、ごみを減らせることを多くの来場者にPRできました。



●風呂敷づくりによる啓発「私だけのプチ風呂敷をつくろう」

「あかし環境フェア 2008」の環境ステージで、風呂敷づくり教室「私だけのプチ風呂敷をつくろう」を開催しました。

参加した子どもたちは、用意した布にイラストを描いて、オリジナルの風呂敷づくりにチャレンジしました。

ライフスタイルグループは取り組みを紹介するなどの協力に留まりましたが、平成 21 年度以降は自分たちが講師となって、風呂敷の活用法を紹介する予定です。



●環境マイスター養成講座のテキストづくり

環境マイスター養成講座のテキストづくりに関連して、「あかし環境フェア 2008」で環境クイズラリーを実施しました。ライフスタイルグループだけではなく、エネルギー、自然の各ブース出展者が問題づくりに協力し、全 10 問を出題しました。

272 名の参加があり、246 名から回答がありました。

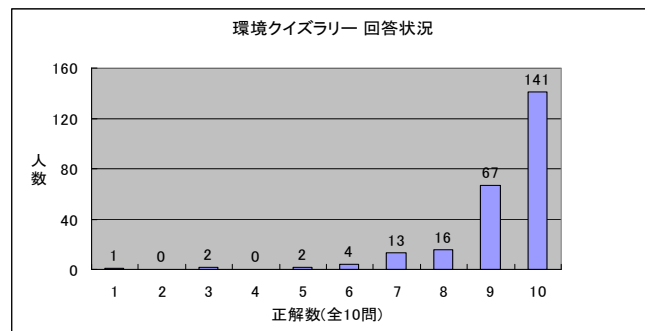


●グループ活動の実績まとめ

平成 20 年度に開催した布ぞうり教室、環境クイズラリーの実績をまとめました。

布ぞうり教室は、主婦層を中心に多くの問い合わせがあり、好評でした。市民対象に開催した第 3 回教室には、定員 30 名のところ倍以上の方から申し込みがあり、平成 21 年 4 月 26 日に教室を追加で開催しました。

布ぞうり教室	参加者
第 1 回(11 月 8 日・会員対象)	10 名
第 2 回(2 月 8 日・会員対象)	10 名
第 3 回(3 月 22 日・市民対象)	32 名
計	52 名



今後の取り組み予定

- 毎月 1 回、プロジェクト推進のための会議を開催します。
- ごみ問題を中心に環境マイスター養成講座のテキストを作成し、講座を開催します。
- 環境マイスター養成講座のテキスト作成の参考にするため、明石クリーンセンターの施設見学会などを実施し、グループ内の知識向上を図ります。
- くらしの知恵を紹介する取り組みとして、布ぞうりづくりの紹介、風呂敷の使い方教室を開催します。
- 自主企画の啓発だけではなく、市内事業所の環境関連イベントにも協力し、ブース出展などに参加します。

エネルギーのグループ

●エネルギーに関するリーディングプロジェクト

LP4.マイカーの利用を考える運動

自動車の運転を工夫することで、地球にやさしいことができるのをご存知ですか？

挿絵予定

LP5.自動販売機の適正化で環境を改善する

自動販売機は便利ですね。でもちょっと視点を変えてみませんか？

挿絵予定

LP6.市民太陽光発電所プロジェクト

環境先進国だけの取り組みではありません。市民発電で自然エネルギーへの関心を高めます。

LP7.家庭でできる温暖化防止

ほんの少しのことからできる温暖化防止があります。できることから始めましょう。

平成 20 年度の取り組み状況

●プロジェクト推進のための会議開催（計 1 2 回開催）

●あかし環境フェアにおける活動のPR

平成 21 年 3 月 8 日「あかし環境フェア 2008」で、①プロジェクトのパネル展示や活動チラシの配布、②ソーラーカー作り教室を実施し、エネルギーグループで取り組んでいる活動をPRしました。



●エコドライブ講習会の開催（平成 21 年 1 月 28 日・29 日）

（社）日本自動車連盟（JAF）から講師を招き、グループメンバー向けの講習会を開催しました。

エコドライブを行っているときのエンジンのメカニズム等の、技術的なことも非常に分かりやすく解説していただきました。

この講習会は、今後グループメンバー自身が講師となり、市民向けに講習会を開催するための“講師養成講習”の意味をもっています。

エネルギーグループ以外のメンバーもあわせて、2 日間で計 39 名が参加しました。



●自動販売機設置状況調査の実施

グループメンバーで自動販売機の配置状況を調査しました。少人数で実施したために、苦労もありましたが、収集したデータは自動販売機のあり方を検討する上で、不可欠です。

今後のプロジェクト推進に生かします。

●市民共同発電所に関する講演会の開催と先進事例の視察

市民共同発電所や、自然エネルギーの専門家を講師に招き、講演会を開催しました。

平成 21 年 2 月 24 日、先進事例である岡山市の中山保育園を視察し、行政担当者と実施主体である N P O 法人おかやまエネルギーの未来を考える会の廣本悦子会長から、発電施設設置で苦労した話などを伺いました。



市民からの寄付により設置された太陽光発電施設（岡山市）

市民共同発電所に関する講演会実績

講演会日時	場 所	内 容
平成 20 年 8 月 28 日	男女共同参画センター	講師：神戸まちづくり研究所の能村聡氏 内容：「市民共同の自然エネルギー発電所づくり」の講演会（参加者 約 25 名）
平成 20 年 12 月 20 日	市立文化博物館	講師：元立命館大学教授の和田武氏 内容：「自然エネルギー普及と市民の役割」の講演会（参加者 約 50 名）

●チーム・マイナス 6 % の登録

エコウイングあかし会員、市民に呼びかけ、環境省の「チーム・マイナス 6 %」にチーム登録しました。賛同するメンバーを募集しています。

登録 N o . 「20680895」 登録チーム名「ゆほびか」

今後の取り組み予定

- プロジェクト推進のための会議を定期的で開催します。
- エコドライブを普及させるため、グループメンバーが講師になって、講習会を開催します。
- 自動販売機設置状況調査のデータを整理して、市民向けの報告会を開催し、自動販売機のあり方を検討します。
- 市民共同発電所を建設するため、実施主体となる N P O 法人を立ち上げます。
- 「ゆほびか」のメンバー拡大を図り、情報を共有し合い、協働で地球温暖化対策に取り組みます。



自然のグループ

●自然に関するリーディングプロジェクト

LP8.水でつながる明石の自然プロジェクト～コウノトリきて!ウミガメきて!大作戦～

明石の代表的な自然である「水」(海、川、ため池…)の環境を改善し、コウノトリがやってくる自然環境を明石に作ります。可能性はゼロじゃない!?

挿絵予定

LP9.明石に「ふれあいの里山」を復活させよう!!IN金ヶ崎公園

夏休みにカブトムシやクワガタを捕まえた思い出。ずーっと明石に残しましょう。

LP10.地産地消あかし流＝エコめぐり

地産地消って明石でもやってるの?できるの?環境とどんな関係があるの?

挿絵予定

LP11.みどりのコーディネーター・プロジェクト

まちにみどりを増やしたい市民と行政の緑化施策をつなぎます。

LP12.“古(いにしえ)の今”を次世代につなぐ「明石のよいところ」プロジェクト

私だけが知っているんじゃない「明石のよいところ」!

LP13.自然環境ナビ

たくさんある明石の自然・天然資源情報をもっと見やすく。もっとわかりやすく。

平成 20 年度の取り組み状況

●プロジェクト推進のための会議開催 (計 16 回開催)

●「明石の自然歩き隊」の開催

明石には、里山、水田、ため池、水路、川、海へと「水の流れ」でつながる豊かな自然環境と、歴史文化が今もたくさん残っています。そんな、身近にある自然に興味を持ってもらい、エコウイングあかしで進める自然グループの取り組みについても知ってもらいました。

第2弾「江井島駅～八木遺跡公園」	
日時：平成20年6月8日	西灘の酒蔵⇒海のゆりかご「アマモ」⇒明石原人・住吉神社⇒瓦工場跡と古民家群 (参加者 80名)
第3弾「大蔵谷旧宿場町～明石公園」	
日時：平成20年11月23日	大蔵谷旧宿場町⇒本陣跡・モチノキの古木⇒子午線標識⇒明石公園 (参加者 40名)

●「明石の自然歩き隊」冊子の制作

過去に行った市内3エリアの「明石の自然歩き隊」。自然や歴史文化スポットをルートごとにまとめた冊子を制作しました。

●「ふれあいの里山」復活大作戦。オープニング記念講演会の開催

環境基本計画のリーディングプロジェクトの一つ「明石に“ふれあいの里山”を復活させよう！in 金ヶ崎公園」の取り組みを立ち上げるにあたり、講演会を開催しました。

日時：平成 20 年 12 月 14 日	場所：金ヶ崎公園(明石市魚住町金ヶ崎 1541-1)
(内容) ①主催者挨拶・プロジェクトの説明：エコウイングあかし 川島幸夫氏 ②里山の大切さ、里山整備について(明石に求められる里山像)：兵庫県立大学教授 服部保氏 ③里山整備活動について：NPO法人ひょうご森の倶楽部 会長 福田正氏 ④今後の金ヶ崎公園の整備について：エコウイングあかし 森逸男氏 ⑤公園内整備予定地視察、現地指導：兵庫県立大学教授 服部保氏 (参加者 50 名)	

●「ふれあいの里山」復活大作戦。里山整備の基本を一緒に学びましょう！の開催

「明石に“ふれあいの里山”を復活させよう！in 金ヶ崎公園」の現地作業が始まりました。

日時：平成 21 年 2 月 28 日	場所：金ヶ崎公園(明石市魚住町金ヶ崎 1541-1)
(内容) 植生調査の目的、方法と実地作業：兵庫県立人と自然の博物館 黒田有寿茂氏 (参加者 30 名)	

●海草アマモによる里海の創生について

日時：	場所・内容：
平成 20 年 6 月 21 日	江井島海水浴場にて、アマモの種取り
平成 20 年 11 月 20 日	江井島小学校にて、3 年生がアマモポット苗を製作
平成 21 年 3 月 5 日	江井島地先海域への育成ポット苗の移植

今後の取り組み予定

- プロジェクト推進のための会議を 12 回開催します。
- LP9 を推進するため、里山の植生調査、月 1 回の里山整備を実施します。
- 「エコ炭銀行」と協働して竹炭製作を実施するとともに、金ヶ崎公園では、LP8 のイベントを実施します。
- 明石市の里山、里地、里海振興施策に協力し、各種団体と交流しながら、活動範囲を広げていきます。

5 明石市環境マネジメントシステム

環境基本計画では、市民、事業者、行政の協働によるリーディングプロジェクトと、明石市（行政）の施策による推進を掲げています。環境基本計画の進捗管理、環境の継続的な改善のために、平成12年度から「環境マネジメントシステム」を導入しています。

明石市環境マネジメントシステムとは

環境マネジメントシステムは、企業や地方公共団体等が積極的に環境保全行動に取り組み、自主的・継続的に改善する仕組みです。

明石市では、環境基本計画の進捗を管理するため、平成12年度に「環境マネジメントシステム」を導入し、国際規格ISO14001を平成13年3月14日に認証取得しました。

平成19年3月13日からは、「自己宣言」方式へ移行しています。「自己宣言」は、外部審査機関による審査を受けずに、規格との適合性を自ら判断し、宣言する方式です。環境配慮意識が職員に浸透してきたことから、市の実情に沿ったシステム構築のため移行しました。

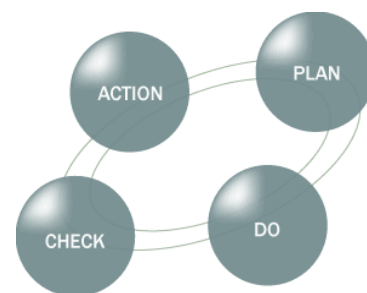


明石市環境マネジメントシステムの適用範囲

明石市環境マネジメントシステムの適用範囲は、市役所本庁舎と市関連施設の事務・事業活動です。

●システムを運用するしくみ（PDCAサイクル）

- ① **P L A N** : 環境保全のための方針を立て目標を設定し、具体的な行動計画を立てる
- ② **D O** : 行動計画を実施する
- ③ **C H E C K** : 行動計画が適切に運用されているか実施状況や成果を点検する
- ④ **A C T I O N** : 点検結果を参考にシステムを見直し、改善する



①～④の繰り返し(=PDCAサイクル)により、継続的なシステムの改善を図ります。

自治体間相互環境監査システム会議

環境マネジメントシステムの透明性、信頼性をより高めるため、5市（尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、明石市）の相互環境監査システムを構築しています。

5市で締結した「環境マネジメントシステムに係る自治体間相互環境監査に関する覚書」に基づき、平成20年度は尼崎市、西宮市の職員が明石市内部環境監査に参加しました。明石市からは尼崎市、宝塚市の監査に参加しました。



環境目的・環境目標の取り組み

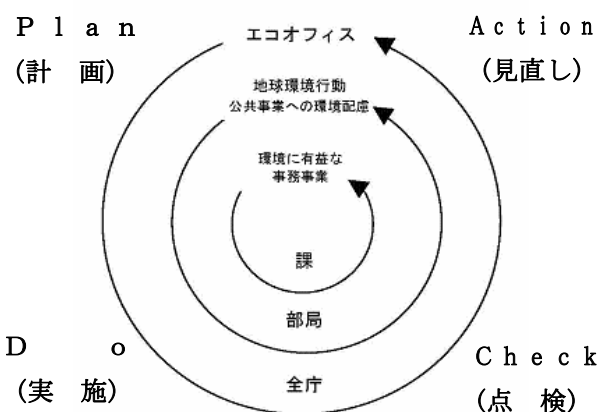
「環境目的・環境目標」として、市役所の事務・事業活動で環境に特に良い影響を与えるもの、悪い影響を与えるものを抽出しています。抽出した項目に、目的・目標・行動計画を設定し、その達成に向けて取り組んでいます。

平成20年度は、市役所全体での取り組み、部局ごとの取り組み、課ごとの取り組みと、各階層で目標を設定し、相互作用で環境改善が進むしくみづくりに取り組みました。

環境目的：概ね3年の計画期間について設定する
中期的な到達点

環境目標：環境目的を達成するために年度ごとに
設定する到達点

- 該当部局での取り組み「公共事業への環境配慮」
- 市役所全体での取り組み「エコオフィス」
- 部局での取り組み「地球環境行動」
- 課での取り組み「環境に有益な事務事業」



環境目的・環境目標のPDCAサイクル図

該当部局での取り組み 「公共事業への環境配慮」

市役所が管理する公共事業について、「明石市の公共事業における環境配慮指針」を定め、指針に基づいて環境配慮に取り組んでいます。

該当する部局では年度ごとに評価し、総括と翌年度の目標を設定しています。

公共事業への環境配慮 平成20年度の実施結果

市の該当部局	各部環境配慮率	目標値との誤差	目標達成
産業振興部	66.7%	-8.3%	○
土木部	85.6%	+5.6%	×
都市整備部	76.8%	-9.2%	○
下水道部	83.9%	-0.8%	○
水道部	85.3%	±0%	×

※目標値との誤差：+は目標値を上回る実績

平成20年度は産業振興部、土木部、都市整備部、下水道部、水道部の5部で取り組み、3部で目標を達成しました。目標を高く設定していたために、残りの2部では目標を達成できませんでしたが、全体での環境配慮率は82.2%と、80%以上を達成しています。

市役所全体での取り組み 「エコオフィス」

市役所の事務活動で発生する「コピー用紙の使用」、「ガソリンの消費」、「電気の消費」、「都市ガスの消費」の4項目に目標値を設定し、省資源・省エネルギーに取り組みました。

エコオフィス 平成20年度の実施結果（市役所全体）

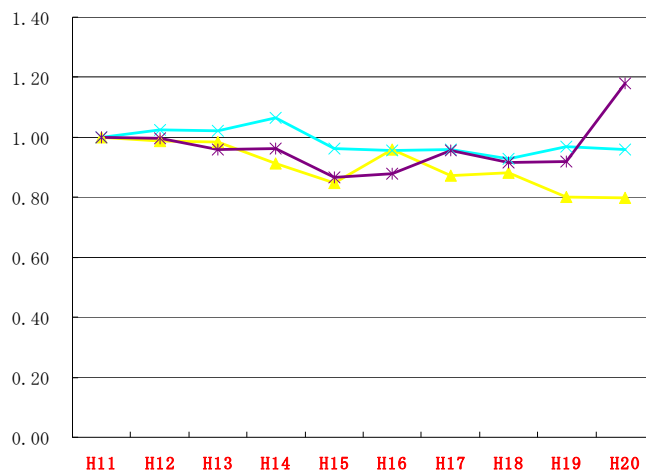
項目	目標と結果	目標達成
コピー用紙の使用	【目標】平成19年度値を維持	×
	【結果】17,917,000枚 (= 269,500枚の増加) ⇒ 明石市職員1人あたり約70枚の増加 ※1	
ガソリンの消費	【目標】平成19年度値を維持	○
	【結果】84,688 L (307Lの削減) ⇒ 公用車 明石-東京間 約3往復分の削減 ※1	
電気の消費	【目標】平成19年度から4%削減	×
	【結果】2,761,862 kWh (22,013 kWh = 0.7%の削減) ⇒ 家庭に置き換えて考えると… 約5世帯の年間消費量と同等分を削減	
都市ガスの消費	【目標】平成19年度値を維持	×
	【結果】84,688 L (= 18,436枚の増加) ⇒ 家庭に置き換えて考えると… 約4.7世帯の年間消費量と同等分の増加	

※ 燃費 12.6km/ℓ（平成21年度の明石市所有の軽自動車）で計算

※ 1世帯あたりの年間電力消費量を4,500kWh/年、都市ガスの年間消費量を390 m³/年で計算

平成19年度比で目標設定しましたが、ガソリンを除き、目標を達成できませんでした。電気消費量は昨年度比で減少していますが、目標に届きませんでした。都市ガスの消費量が大幅に増加しているのは、庁舎施設の冷暖房機器の緊急トラブルが原因です。

下表は、平成11年度からの推移を表しています。



※コピー用紙は、平成19年度に大幅な見直しがあり、過去の比較からは除外しています。

パフォーマンス効果 (H11比)

部局での取り組み 「地球環境行動」

平成 20 年度から開始した新たな取り組みです。市役所の各部局で、「地球環境への負荷を減らすための行動」について目標を設定し、達成に向けて取り組みました。

平成 20 年度は「本来業務を進めることが環境への配慮につながる」をテーマに、23 部局、25 項目を対象に実施しました。

以下に、自部局だけでなく市民や事業所、市役所の他部局に展開した事例を挙げています。23P～24P には、事業評価表（一覧表）を掲載しています。

●保険・健康部 「階段利用の推進による健康づくり」

メッセージバナーを活用して階段利用を推進し、地球環境への負荷を減らす取り組みです。階段利用は健康だけでなく、エレベーター・エスカレーター等のエネルギー消費量を削減するのにも効果があります。

平成 20 年度は公共機関 2 箇所（市立保健センター、明石健康福祉事務所）、商業分野 2 箇所（コープ鳥羽、ステーションプラザ）で実施しました。



市立保健センター内階段

●財務部 「公用自転車の利用促進」

市役所の公用自転車の利用を促進し、ガソリンの使用量を抑制して、地球環境への負荷を減らす取り組みです。市役所で長期間使用していた公用自転車を新車に改め、保有台数を増やしました。

市職員用のHPで職員に、公用自転車の利用促進を呼びかけました。平成 21 年度は更なる利用増加を目指します。



市役所職員への利用案内

地球環境行動 平成 20 年度の各部局評価（23 部局 25 項目）

達成度	実施時期	環境目標の達成状況 (各部局年間評価)	全体に占める割合
実施可能だが未実施 or 未達成 (0点)		0 項目	0.0 %
期待を下回る (1点)		1 項目	4.0 %
期待どおり (2点)		21 項目	84.0 %
期待を上回る (3点)		3 項目	12.0 %
実施予定なし or 完了済 (-)		0 項目	0.0 %

課での取り組み 「環境に有益な事務事業」

環境基本計画で定める、行政が主体的にすすめる45の取り組みを中心に、市役所の各課で取り組む環境に良い影響を与える事業を抽出したものです。原則四半期ごとに自己評価し、改善に取り組みました。

平成20年度は「本来業務を進めることが環境への配慮につながる」をテーマに、46課、106項目を対象に実施しました。

以下に、自課だけでなく地域住民などに展開した事例を挙げています。23P～24Pには、事業評価表（一覧表）を掲載しています。

●都市整備部都市計画課 「わがまちあかし十景による啓発」

環境基本計画で定める、良好な都市景観の形成を推進するために、「わがまちあかし十景」のカレンダー、新名刺台紙を作成し、広く景観のPRを行いました。

また、景観ウォーク等も好評で、平成21年度以降も引き続き啓発活動を実施します。



●教育委員会 明石商業高等学校 「地域の環境美化活動」

（平成20年度 新規目標）

第3学年の通学路（魚住駅～明商）ごみ拾い清掃を実施し、環境美化に取り組みました。当日は小雨の中で実施しましたが、参加した生徒140名は、ごみ袋40袋分を回収し、予定通りの成果がありました。

清掃中には地域の方々に声をかけられるなど、地域とのコミュニケーションが生徒たちの励みになりました。平成21年度も環境美化活動を継続して実施します。

環境に有益な事務事業 平成20年度の各課評価（46課 106項目）

達成度	実施時期	環境目標の達成状況 (各部局年間評価)	全体に占める割合
実施可能だが未実施 or 未達成 (0点)		0項目	0.0%
期待を下回る (1点)		8項目	4.0%
期待どおり (2点)		80項目	84.0%
期待を上回る (3点)		16項目	12.0%
実施予定なし or 完了済 (-)		2項目	0.0%

明石市内部環境監査の実施

内部環境監査は、明石市環境マネジメントシステムが、ISO14001 規格の要求事項に適合しており、かつ、そのシステムが有効に機能しているかを評価するために実施しています。

内部環境監査の結果は、環境管理総括者（市長）による見直しの際、内部環境監査結果報告書として、情報提供されます。



内部環境監査員研修の受講



研修のグループワーク

平成 20 年度の内部環境監査

環境管理総括者（市長）が任命した内部環境監査責任者、同副責任者、主任内部環境監査員、及び内部環境監査員の 36 名体制で、平成 20 年度の内部環境監査を実施しました。

市役所の対象部局、課に 10 月から 11 月で実施した結果、不適合 1 件、観察事項 3 件、改善提案 1 件を確認しました。これらは、全て是正措置が完了しています。

●優れている点や他の模範とすべき点

日常業務の中で環境への配慮を意識づける内容など、14 課から事例報告がありました。

- ・会議室を利用する地域住民への啓発（冷暖房温度の適正化、不要な照明の消灯）
- ・市議会議員の控え室への紙分別ボックスの設置 など

環境管理総括者（市長）による見直し

毎年度末、環境管理総括者（市長）が環境マネジメントシステムの見直しを行います。平成 20 年度は、平成 21 年 3 月 25 日に実施しました。指示事項は、以下の 3 点です。

- (1) 内部環境監査について実施しやすい環境と体制を整えること。
- (2) 環境目的及び環境目標を設定しやすくなるような工夫をすること。
- (3) 環境に対する職員の高い意識を保つため、環境マネジメントシステムを取り組みやすいものにする。

6 自然環境再生への取り組み

「明石の自然歩き隊」の発行

エコウイングあかし自然グループと協働して、明石の自然や歴史文化スポット 3 ルートをまとめた冊子を発行しました。

また、既刊の情報誌に明石の自然環境を紹介している「知っと明石」が 4 編あります。

上記の冊子は当課で配布するほか、地球環境課の Web サイト「エコイスト」でダウンロードすることもできます。



自然環境調査の実施

市は市内の自然環境の状況を継続的に確認し、環境の変化について追跡調査を行っています。平成 20 年度は実地調査のほか、最近行った市内の自然環境に関する調査を収集、整理しました。

ため池 水生動植物の保全

大久保町江井島を中心とした市内のため池には、多くの種類の水生植物が生育しています。希少種も多いことから、市では、ため池の水質改善をはじめ、水生植物保全の方法を検討しています。

特にオニバスは、西日本有数の群生地として知られており、毎年観察会が開催され、多くの人の興味をひきつけています。



里山 樹林域の保全

「里山」は大久保北部丘陵地域と金ヶ崎地区の 2 箇所に残っています。

里山の環境は、人の手が入ることによって多くの生きものが再生し、生態系のバランスが保たれています。

市ではエコウイングあかしと協働し、金ヶ崎地区の里山整備を進めています。

整備する里山は、昔のような生活密着型の利用ではなく、市民の環境学習の場、特に子どもの自然環境体験学習活動の場として利用することとしています。



河川 河川の保全

市内を流れる河川には、ウナギ、タモロコ、メダカなどの魚類や、ヨシ、マコモ、ヒメガマなどの植物がみられます。これらの中には希少な生きものも含まれており、地域の「川を守る会」などが、見守り活動を行っています。

これらの河川は、上流から流れてきたごみが中州などにたまり、自然環境によくない状況が生じるので、「川を守る会」により定期的な清掃が行われ、河川環境が保全されています。



海岸 陸域・海域の保全

市内の中西部の海岸は人工的に造られた海浜がほとんどですが、整備後の時間が経つにつれて自然環境を取り戻すようになってきています。

海浜の陸域ではコウボウシバ、ハマボウフウ、ハマエンドウなどの海浜植物が定着しています。

海域ではアマモに代表される海草、ワカメ、カジメなどの海藻、イシダタミなどの巻貝のほか多くの魚介類が見られます。

特にアマモは、海域の生態系において重要な位置を占めていることから、市では、小学生などにアマモのポット苗を育ててもらい、海域に移植してアマモを増やす活動を行っています。

かつては明石の海岸にアマモの大群落が見られたそうですが、現在では小さな群落が所々に見られる程度まで減少しています。一度失われた環境が再生するのは簡単ではありませんが、多くの人の手を借りて、多様な生きものを育むアマモ場を広げ、賑わいのある『里海』の創生を図ります。



沿岸海域 沿岸海域の保全

明石は全国でも屈指の沿岸漁業の生産地で、多くの種類の魚介類が水揚げされます。

明石海峡の潮流の影響で沿岸海域は良好な水質で、海底も起伏に富み、多種多様な生きものが生息しています。クジラの仲間のスナメリや、きれいな海にしかすまないナメクジウオ、ウチムラサキをはじめとする二枚貝などは数を減らし、希少な生きものとなっています。ウチムラサキを海域にまく試験も地元関係者により行われていますが、目立った効果はみられていません。

7 地球温暖化対策実行計画の取り組み

明石市地球温暖化対策実行計画とは

明石市では「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、平成13年3月に市役所の事務や事業による温室効果ガスの排出抑制を目的とする「明石市地球温暖化対策実行計画」を定めています。平成19年3月には、計画をより実効性の高いものへと改定しました。

(以下の「地球温暖化対策実行計画」は改定後のものです。計画の内容については、Webサイトにて公開しています。)

平成20年6月に法改正があり、市役所だけでなく地域の事業者、住民による省エネや温室効果ガスの排出抑制の推進などが求められています。市が策定する新たな実行計画では、更なる温室効果ガスの排出抑制にそれぞれの協力が必要になります。

明石市役所の事務事業から排出した温室効果ガス量

平成20年度の市役所の事務・事業による温室効果ガスの排出量は、二酸化炭素に換算すると100,314,985 kg-CO₂でした。これを杉の木の本数に見立てると、吸収するには約7,165,000本の杉の木が必要です。植林密度を700本/haとすると明石市の面積の2倍(約10,236ha)の杉林が必要と考えられます。

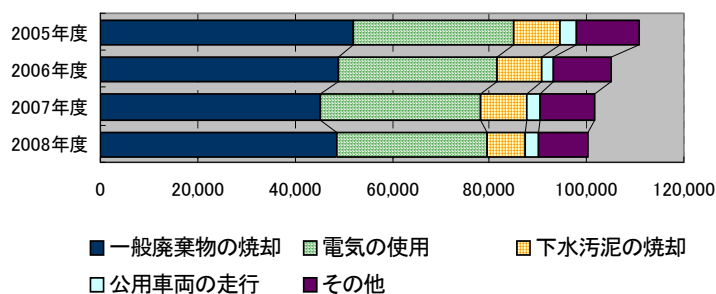
温室効果ガスの排出量は、実行計画の基準年(平成17年度)と比較して9.5%減少しています。この削減量は752,000本の杉の木が吸収する量に匹敵します。

排出源の内訳は、一般廃棄物の焼却、電気の使用、公用車両の走行などです。特に排出割合の多い、電気使用量の削減や焼却する廃棄物に含まれるプラスチック類の減量を更に進める必要があります。

※ 杉の木1本あたりのCO₂吸収量：14kg/本・年(環境省・林野庁による)

市の事務事業から排出された温室効果ガス排出量 単位 kg-CO₂

種類 / 年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
一般廃棄物の焼却	51,905,637	49,037,869	45,078,357	48,511,754
電気の使用	33,064,295	32,492,683	33,070,587	30,901,906
下水汚泥の焼却	9,447,694	9,139,542	9,558,559	8,058,084
公用車両の走行	3,430,625	2,607,063	2,564,768	2,512,770
その他	12,995,153	11,896,666	11,261,009	10,330,471
合計	110,843,404	105,173,823	101,533,280	100,314,985
対2005年度削減率	—	-5.1%	-8.4%	-9.5%



温室効果ガス排出の個別の状況

●一般廃棄物の焼却

一般廃棄物の焼却による温室効果ガス排出のほとんどは、廃プラスチックに起因するものです。焼却ごみの組成分析から推計した、平成 20 年度の廃プラスチック焼却量は 17,323 t でした。(平成 17 年度比：7.2%減少)

●電気の使用

平成 20 年度の電気使用量は 80,473,713 kWh でした。(平成 17 年度比：6.5%減少)
電気使用量は、気候的な要因により変動するため、更に削減を進める必要があります。

市の事務事業で使用した電気使用量		単位 kWh			
種類 / 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	
水道	29,533,231	27,567,118	27,947,616	25,835,684	
下水道	25,969,536	25,566,514	26,258,710	25,222,183	
学校園	7,066,214	7,126,674	7,278,364	7,219,939	
市民病院	5,092,513	5,103,566	5,361,898	5,131,472	
街灯	3,639,342	3,675,000	3,815,491	3,405,590	
その他	14,804,098	15,577,490	15,459,242	13,658,835	
合計	86,104,934	84,616,362	86,121,321	80,473,713	
対 2005 年度削減率	—	-1.7 %	0.0 %	-6.5 %	

市役所では「ごみ焼却熱」を有効利用した発電を行っています。発電した電気は明石クリーンセンターの各施設、隣接庁舎へ供給しています。余った電気は関西電力に売電しています。平成 20 年度の売電量は 23,573,200 kWh でした。

● 公用車両の走行

平成 20 年度の事務関係公用車両のガソリン使用量は 171,775 l でした。(平成 17 年度比：20.0 %減少)

市バス車両やごみ収集車など公用車両の軽油使用量は 774,232 l でした。(平成 17 年度比：29.1%減少)

市役所では公用車両の台数を年次的に減らし、従来の石油燃料車に替え、二酸化炭素、窒素酸化物、粒子状物質などの排出を抑制するため「低公害車」を導入しています(明石市低公害車導入計画：平成 16 年 10 月)。現在はごみ収集車を主に、天然ガス車を計 8 台導入しています。



地球温暖化対策の啓発活動

あかしブラックイルミネーション2008（平成20年6月22日、7月7日）

6月22日（夏至の日）から7月7日（洞爺湖サミット初日）まで、地球温暖化防止の全国的な節電行動としてライトアップ施設や家庭の電気を消灯する「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」が実施されました。

明石市でも、6月22日・7月7日の午後8時から10時の2時間、市役所のライトアップ施設や明石駅前周辺のネオンサイン等の消灯を実施しました。



エコロジーミュージカル「ホープ・ランド」（平成20年7月25日）



明石市民会館大ホールで劇団ふるさときゃらばんによる、地球温暖化問題をテーマにしたエコロジーミュージカル「ホープ・ランド」を上演しました。

市民団体や環境活動グループ、市職員など約700名の方が観劇しました。

あかし打ち水大作戦2008（平成20年8月13日）

都市部のヒートアイランド現象を緩和する取り組みの一つとして、日本古来の暑い夏を快適に過ごすための知恵「打ち水」を紹介する取り組みです。市立天文科学館の玄関前一带で、約200名の協力により実施しました。

天文科学館のシゴセンジャー、明石観光大使の2人がゲスト出演し、参加者は楽しみながら冷房に頼らない“涼”を体感していました。

打ち水で使用した水は市立明石小学校の水泳プールの使用水を再利用しました。



打ち水効果：熱せられた地面に水をまくと、水が地面の熱を奪って蒸発します。熱を大気中に逃がす効果により、地面の温度が下がり、気温も低く抑えられます。

地球温暖化防止ハンドブック



地球温暖化に関する知識を深めてもらい、地球温暖化防止のために、どのような行動を取ればいいのか理解してもらうため、「ぼくたちの地球を守って～地球温暖化防止ハンドブック～」を作成しました。

市関係の施設で配布するとともに、親子で地球温暖化について考えるきっかけにしてもらうため、市内の小学校高学年全員に配布しました。また、地球環境課 Web サイト「エコイスト」からもダウンロードできます。

8 環境首都コンテストへの取り組み

環境首都コンテストとは

明石市は、前回から4年ぶりに「環境首都コンテスト」に参加しました。

「環境首都コンテスト」では、日本全国の環境問題に取り組むNGOが理想とする自治体の姿を基に設問が設定され、参加自治体はそれに回答します。コンテストの結果は、環境についての“理想の自治体”に、明石市がどれだけ近づいているかを表しています。

コンテストへの参加は、得意分野をさらに伸ばし、チャレンジ分野への財政面・人材面の効果的投資を市役所全体で考える良い機会となります。

平成13年度から平成22年度までの10回の開催予定のうち、明石市は第2回(平成14年度)から第4回(平成16年度)と、第8回(平成20年度)に参加しました。残りの第9回、第10回にも参加する予定です。



第8回(平成20年度)環境首都コンテストの結果

●総合 18位(67自治体中) / 人口規模別 7位(23自治体中)

前回の平成16年度より、総合で16ポイント、人口規模別で2ポイントアップしました。

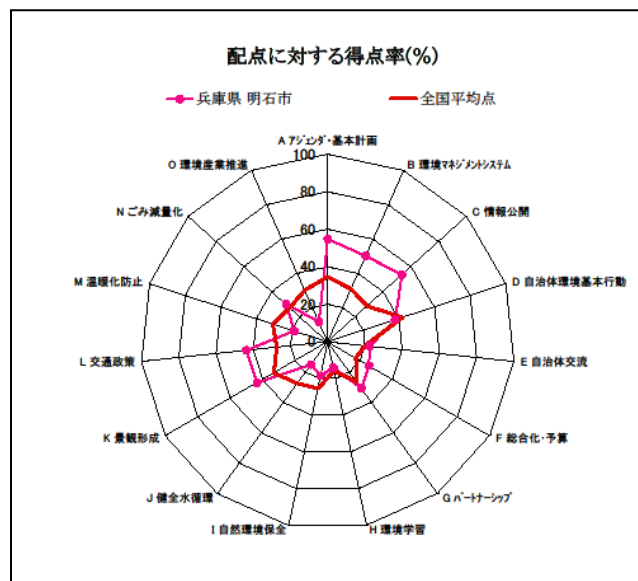
●明石市の得意分野

「アジェンタ・環境基本計画」、
「環境マネジメントシステム」、「情報公開」

●明石市のチャレンジ分野

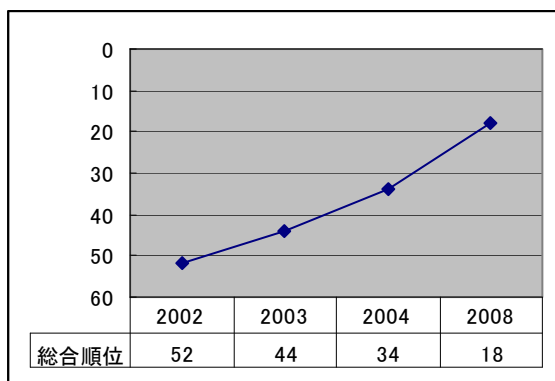
「地球温暖化防止」、「環境産業推進」

「環境首都コンテスト」の結果から、明石市の **得意分野** と、これから力をいれる必要がある **チャレンジ分野** が明らかになりました。

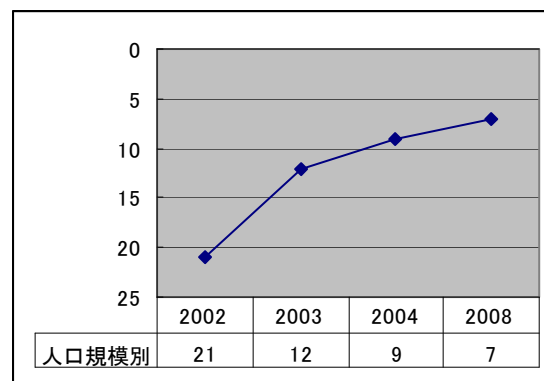


順位の推移

(総合順位)



(人口規模別)



9 平成 20 年度の事業評価表

平成 20 年度に実施した明石市の各部局の取り組み「地球環境行動」、各課の取り組み「環境に有益な事務事業」の内容と評価について、以下の一覧表で掲載します。

(地球環境行動：23 部局 25 項目)

部局名	行動内容	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
政策部	エレベーターの使用を控える	2 up 2 down は階段を利用する	階段利用促進のチラシを各課で掲示して、使用抑制に取り組みました。	○
中心市街地活性化プロジェクト	共有文書のネットワーク化による紙使用量の削減	共有文書のネットワーク化	共有フォルダを活用し、文書の共有化を図ることで、職員の環境意識が高まりました。	○
総務部	時間外勤務時間の削減による省エネ、省資源の推進	H19 年度実績比で、1%の時間外勤務時間の削減	職員の応援体制を充実、係員への弾力的な事務配分により、目標を達成できました。	◎
財務部	公用自転車の利用推進とその環境整備、啓発の強化	ガソリン使用量の抑制	車両の新車更新、保有台数の増車とともに、職員用 HP で職員に利用を呼びかけました。	○
コミュニティ推進部	2km 以上離れた出張には自転車・公共交通機関を利用する	出張方法の見直しを図り、できる限り公用自動車を使用しない	自主研修により目標を周知、専用出張簿を作成し、自動車使用を削減できました。	○
文化芸術部	生涯学習センター内の会議室の、空調機器等の消し忘れを防止	消費電力の削減に努める	施設利用者への周知や、職員による巡回を実施し、消費電力を削減できました。	○
福祉部	イベント時に会場で発生するごみの分別を徹底する	イベント時のごみの分別の徹底	環境にやさしいイベントを心がけ、ごみの分別の徹底により、排出量を低減できました。	○
保険・健康部	階段利用の推進による健康づくり	市民及び市内企業による階段利用の推進	公共機関 2 箇所、商業分野 2 箇所メッセージバナー貼付を実施し、啓発しました。	○
環境部	環境出前講座を定期的開催地球温暖化防止を呼びかける	環境部全体で 50 回の講座開催（平成 19 年度実績：13 回）	関係機関を通じ積極的に講座を PR し、目標を上回る 60 回の講座を開催できました。	○
産業振興部	イベント時のごみの分別徹底と、公共交通機関の利用促進	イベント時のごみの分別・公共交通機関の利用を徹底する	イベントでマイバッグ持参の呼びかけ、ごみの分別場所を記載したマップ 配布を行いました。	○
土木部	公共交通機関の利用促進	「たこバス」の利用促進（年間利用者数：750,000 人）	目標に対して、717,971 人と 95.7%の達成でした。更なる広報・PR に努めます。	△
都市整備部	都市公園の整備	基盤整備及び施設整備を実施（0.2ha 整備・全 1.1ha）	3 ヶ年の計画に基づき、防災設備を整備し、整備目標を 100%達成できました。	○
下水道部	「循環のみち（環境負荷の低減）」に向けた啓発の実施	下水道に関するイベントの充実、市民への広報活動の拡充	積極的な地元説明会開催、下水道展や出前講座など市民への啓発を拡充しました。	○
会計室	審査等に必要帳票の削減及び添付書類の簡素化を図る	各課会計担当者への指導及び研修を実施する	実務研修会の実施、紙ベース資料の FD データ化により、大幅にごみを削減できました。	◎
市民病院事務局	環境負荷の低いものへの転換消費エネルギーの低い機器へ更新	灯油の使用について、可能な限り都市ガスへ転換する	冬季の主燃料を灯油から都市ガスに変更により、CO ₂ 排出量を約 100t 削減できました。	○
交通部	市バス運行に係る軽油消費量の軽減を図る	バス運転について、低燃費走行を実践する	アイドリングストップが浸透し、軽油使用量を H19 年度比で約 2.1%削減できました。	○
水道部	老朽管の布設替えによる漏水の防止及び減少	老朽管布設替え 4,050m 布設替進捗率 38.3%	漏水調査の強化等に取り組んだ結果、目標比で 124%を実施、目標を達成できました。	◎

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=—

部局名	行動内容	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
教育委員会事務局(1)	リサイクル図書の推進	資源の有効活用・リサイクル啓発	リサイクル図書フェアでは、約 2,000 人の市民に約 9,800 冊のリサイクル図書を無償配布しました。	○
教育委員会事務局(2)	学校給食での地産地消	明石市産の海苔を毎月、学校給食に提供する	毎月 1 回明石市産の海苔を提供し、給食の会議で地産地消を積極的に奨励しました。	○
市議会事務局	事務局及び議員控室より出る紙類の分別を徹底する	可燃ごみの削減	事務局・議員控室のリサイクルボックスに古紙受入基準を明示し、古紙リサイクルに取り組みました。	○
監査事務局	エレベーターの使用回数を減らす	2 up 2 down はエレベーターを使用しないように意識する	エレベーター側の出入口に啓発チラシを掲示し、使用しない習慣が職員に定着しました。	○
選挙管理委員会事務局	選挙における開票開始時間の繰上げ・開票時間の短縮	選挙における開票開始時間の繰上げ・開票時間短縮の調査、検討	道具類の見直し、新機材選定により時間短縮は可能と判明、次年度の導入を進めます。	○
農業委員会事務局	メモ用紙等の雑がみを回収、再生紙にまわす	紙ごみ回収の徹底	課に「紙ごみ専用」と表示した専用箱を配置し、職員のリサイクル意識が向上しました。	○
消防本部(1)	電気使用量の削減を徹底する	前年度比で電気使用量を削減する	休憩時間の庁舎内消灯、使用しない間の PC 電源 OFF を徹底、使用量削減に努めました。	○
消防本部(2)	庁舎より出る、紙類の分別の徹底を図る	可燃ごみの削減	古紙回収の分別状況を把握し、指導等を行った結果、可燃ごみを削減できました。	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=ー

(環境に有益な事務事業：46 課 106 項目)

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
1. 環境教育・環境学習の推進				
生涯学習センター	環境教育・環境学習の推進	生涯学習センター・コミセンでの環境問題に関する市民講座の開催	ごみとリサイクル、エネルギー等の環境に関する講座を開催し、環境意識の向上に努めました。	○
ごみ対策課	環境副読本の作成（ごみ減量化推進事業）	環境副読本を作成し、授業用に、市内全校の小学 4 年生へ配布する	市内小学校 30 校の全 4 年生に副読本を配布、教員の評価は概ね好評でした。	○
総務課	みんなで学校園を美しくする運動事業	運動の展開により教育環境を整備する	運動の趣旨はかなり浸透し、各学校園では、意欲的な実践活動が行われました。	○
明石商業高等学校	奉仕活動	地域環境美化	3 年生が通学路（魚住駅～明商）のごみ拾い清掃を行い、地域環境美化に取り組みました。	○
予防課	防災センター運営事業	防災センターへの集客イベントの開催	秋の防火ポスター展（約 800 点の応募）、震災をテーマにした防災啓発イベントなどを行いました。	○
消防署	消防署運営事業	市民への防火意識啓発、自主防災組織等への訓練指導を実施する	防火指導及び訓練指導の実施により、市民の火災予防意識の向上に努めました。	○
2. 自然観察会や、環境学習のためのイベントの充実				
3. 環境活動拠点の設置・機能拡充				
コミュニティ推進室	環境活動拠点の設置・機能拡充	コミセンにおける啓発パンフレット等の配布機会を拡充する	全コミセンのパンフレット配布、市内 4 コミセンの清掃活動、高齢者大学の環境講座等を行いました。	○
環境保全課	環境共生啓発事業	環境学習支援制度の推進	水質測定キットや双眼鏡の貸出（5 件）、講師派遣（3 件）等を行い、学習を支援しました。	○
4. 遊休農地を活用した市民農園の整備				
農水産課	市民農園管理運営事業	市民農園候補地の選定	関係団体等との協議を経て市民農園を開設、市民に土と触れ合う場所を提供できました。	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=ー

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
5. 人材の育成及び派遣				
地球環境課	環境共生啓発事業 (環境学習支援制度)	環境学習支援制度の推進	積極的に出前講座 PR を行い、昨年 7 件を上回る、16 回の講師派遣を実施できました。	◎
6. 市役所職員への環境に対する意識啓発の充実				
人材開発課	能力開発支援事業	新規採用職員研修での、環境問題に関するプログラムの実施	新規採用職員研修ステップ 1 で「環境問題への取り組み」の研修を実施しました(16 名)。	◎
地球環境課	EMS 運用事業 (環境管理研修)	EMS の取り組みを通じ、庁内職員の知識・技能習得と向上を図る	新規採用職員研修では、研修意見を集約し、提案事項として全庁的に周知しました。	○
7. 図書館における環境関連資料の充実				
社会教育推進課	図書館運営事業	環境問題の関心や理解を深める	82 冊の環境関連図書を購入、環境月間にはポスターや関連図書を展示して啓発しました。	○
8. 自然に関する調査及び環境マップの作成と普及促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (自然に関するプロジェクト)	・自然環境データ収集・整理 ・里山再生活動の推進	里山整備、ウォーキングイベント「明石の自然歩き隊」開催、啓発冊子作成等に取り組みました。	◎
9. 環境情報システムの整備推進とその効果的な運用				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (年次報告書)	市民にわかりやすい年次報告書を冊子や Web にて発行する。	わかりやすさを重視するため、冊子内容を大幅に見直し、年次報告書を発行しました。	○
ごみ対策課	ホームページの運営 (リサイクルプラザ運営事業)	ホームページによる積極的な情報発信（更新）	お知らせ等の情報を定期的に発信し、ブログでの継続的な書き込みを行いました。	○
10. 大気、水質、騒音及び有害化学物質等の監視・観測体制の充実				
政策室	地下水保全に関する事務	地下水保全について、条例の規定に基づく規制に取り組む	条例対象外の井戸設置にあたって、条例に準じて届出をするよう指導しました(2 件)。	○
環境保全課	環境監視事業 (大気、水質、騒音等)	環境測定の実施	有害大気汚染物質(12 回)、新幹線等の騒音・振動(24 地点)等の定期測定を実施しました。	○
環境保全課	環境監視事業 (大気、水質、騒音等)	法に基づく大気汚染の自動測定、光化学スモッグ予報時の対応を行う	自動測定局での監視を行うとともに、光化学スモッグ注意報発令時の対応を行いました。	○
環境保全課	環境監視事業 (大気、水質、騒音等)	水質汚濁防止法に基づき水質汚濁の監視を行う。	市内 4 河川の監視や、明石海峡船舶事故による油汚染状況調査等を定期的に行いました。	○
11. 環境汚染物質などに関する調査・測定データの積極的な公開				
環境保全課	環境共生啓発事業	情報提供	環境の現況情報を掲載した冊子、「明石市環境の現況」を作成し、web 等で公表しました。	○
12. 環境に配慮したライフスタイルの推進				
男女共同参画課	消費者フェア	環境に配慮したライフスタイルの推進	リサイクル工作紹介、省エネや地球温暖化のパネル等展示・セミナーを実施し、啓発できました。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (ライフスタイルに関するプロジェクト)	・環境マイスター養成講座の実施 ・布ぞうり・ふろしき教室の開催	環境フェアで布ぞうりの関連展示を実施、市民向けに布ぞうり教室を開催し、好評でした。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト)	・自動販売機調査方法の確立 ・省エネ運転マニュアルの作成	毎月 1 回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (自然に関するプロジェクト)	・自然環境データ収集・整理 ・里山再生活動の推進	里山整備、ウォーキングイベント「明石の自然歩き隊」開催、啓発冊子作成等に取り組みました。	◎
13. 環境影響評価の推進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト)	・自動販売機調査方法の確立 ・省エネ運転マニュアルの作成	毎月 1 回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3 点=◎、2 点=○、1 点=△、0 点=×、実施済み=ー

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
1 4. 地域環境美化活動への市民参加の促進				
地球環境課	環境美化推進事業 （散乱ごみ、ふん害の防止）	ポイ捨て・ふん害に対する啓発事業の実施	苦情のある地域のふん害防止パトロール(23回)、ポイ捨て防止キャンペーン等を実施しました。	○
地球環境課	環境美化推進事業(きらりん明石ポイ捨てパテン運動)	関係団体と美化に関する集いを開催	地域との清掃(14回)、ポイ捨て防止パトロール(245回)、路上啓発シール貼付を実施しました。	○
環境第2課	屋外一斉清掃 （ごみ収集運搬事業）	屋外一斉清掃の趣旨を自治会（町内会）に確認	1,536団体にて屋外一斉清掃を実施し、年間では877,910kgの収集実績になりました。	○
緑化公園課	公園維持管理事業	オープンスペースを都市公園とし、良好な都市景観の保全・創造を進める	公園愛護会による月例清掃、環境月間には一斉清掃(春246-秋248団体)を行いました。	○
緑化公園課	緑化推進事業 （緑化思想の啓蒙）	明石駅前の緑化空間をよりよい形で市民に提供(苗1万株を植栽)	市民と行政が協働して、花の苗(10,710株)を植栽し、目標を達成できました。	○
1 5. 事業者による公害防止対策の推進				
環境保全課	環境に係る事業者への規制・指導事業	法令に基づく立入検査・届出受理(大気・騒音・振動等関係)	法令等に基づいて、大気・騒音・振動等に関する届出受理、立入検査を行いました。	○
環境保全課	環境に係る事業者への規制・指導事業	法令に基づく立入検査・届出受理(水質汚濁・土壌汚染関係)	法令等に基づいて、水質汚濁・土壌汚染に関する届出受理、立入検査を行いました。	◎
商工労政課	工場の設置届けに係る事務(工場立地の適正化)	準則に沿った工場の立地を促進	届出への問合せ対応(7回)を行い、事業所にスムーズな対応ができるようになりました。	○
予防課	予防活動事業 （危険物規制）	事業所等危険物施設に対するの消防査察の実施(目標:60件)	事業所等の危険物施設への消防査察(72回)を実施し、目標比120%を達成できました。	◎
予防課	予防活動事業 （一般予防・設備指導）	防火対象物の消防査察の実施(目標:80件)	事業所等の防火対象物への消防査察(78回)を実施し、目標比は98%でした。	○
予防課	自主防災組織活動支援事業	防災研修等の実施(目標40件)	救急講習会が増加したことで目標を大きく上回る156回の講習会を実施できました。	◎
1 6. 自発的な活動の支援				
コミュニティ推進室	自発的な活動の支援	各グループ、NPOの活動内容をより充実させる	環境がテーマの4団体の活動助成を行い、成果発表会では積極的な活動が見られました。	○
1 7. ごみの発生抑制の促進				
男女共同参画課	消費者カレッジ(子育て期)	環境教育・環境学習の推進	親子を対象に、自然エネルギーのパネル展示や実験、工作のミニセミナーを実施し、啓発しました。	○
大久保市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	会議室利用者へマナー向上を呼びかけることで、職員の環境意識も向上しました。	○
魚住市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	職員の呼びかけにより、会議室利用者の不要な空調利用の申し込みが減りました。	○
二見市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	不要な照明の消灯を実施し、会議室利用者にポスター掲示による啓発を行いました。	○
ごみ対策課	大規模事業所の減量・適正処理事業(ごみ減量化推進事業)	減量化計画書の提出義務づけ、基礎データ把握と指導用資料の収集	大規模事業所に一般廃棄物減量計画書の提出依頼、未提出事業所に指導を行いました。	○
1 8. グリーン購入の促進				
契約課	契約事務事業	グリーン購入推進の継続	H20年度の印刷発注では、グリーン購入基準に適合していない仕様書はありませんでした。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業 （ライフスタイルに関するプロジェクト）	・環境マイスター養成講座の実施 ・布ぞうり・ふろしき教室の開催	環境フェアで布ぞうりの関連展示を実施、市民向けに布ぞうり教室を開催し、好評でした。	○
住宅課	市営住宅維持管理事業	事業の推進にあたり環境面にも配慮する	市営住宅維持管理事業において、環境面に配慮した物品(消火器)の発注を行いました	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=ー

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
19. 紙の使用抑制、リサイクルの推進				
総務課	文書管理事務事業（古紙回収）	H19 年度比 3%以上の古紙回収の実施（目標：97,911kg）	古紙回収の年間実績は 128,890kg で、目標を大きく上回り、目標達成できました。	◎
情報管理課	共同運営による電子申請システム構築	電子申請システム、簡易申請システム利用促進、新規の電子申請手続を開始	事前準備が不要で、簡単便利に利用ができる簡易申請システムの運用を開始しました。	○
地球環境課	環境基本計画等推進事業（ライフスタイルに関するプロジェクト）	・環境マイスター養成講座の実施 ・布ぞうり・ふろしき教室の開催	環境フェアで布ぞうりの関連展示を実施、市民向けに布ぞうり教室を開催し、好評でした。	○
ごみ対策課	再生家具展示会の開催（リサイクルプラザ運営事業）	平成 19 年度実施回数の維持（目標：年 4 回以上の開催）	マイカル環境フェア、あかし環境フェア等で再生利用家具の展示と提供を行い、好評を得ました。	○
20. ごみの分別の徹底と資源化の促進				
ごみ対策課	プラスチック製容器包装分別収集モデル事業（分別収集細分化事業）	モデル事業の実施と分析	指定収集袋の配布等で、自治会等関係者には積極的に取り組んでいただきました。	○
環境第 2 課	ごみの分別収集と資源化の促進（ごみ収集運搬事業）	分別状況の悪いごみステーション把握に努め、分別収集の徹底化を図る	周辺住民、自治会等に啓発チラシを配布（90 件）し、分別収集の徹底に取り組みました。	—
21. 生ごみ資源化啓発の促進				
ごみ対策課	ごみ減量推進員・協力員制度事務（ごみ減量化推進事業）	地域におけるごみ減量・リサイクル・適正分別の活動推進	H20 年度の推進員、協力員と協働し、10 月に「雑がみ収集の啓発」を実施できました。	○
22. ごみ減量化に効果的な経済的手法に対する合意形成				
ごみ対策課	ごみ処理基本計画の進捗管理	ごみ処理基本計画の進捗管理	減量化目標値の達成状況把握、循環型社会形成推進地域計画の策定準備を行いました。	○
23. 公共事業における建設廃材、建設残土の再資源化の促進				
開発審査課	建設リサイクル法事務事業	発注者・元請業者への届出義務の啓蒙、啓発を強化	パンフレット配布、届出工事の現地パトロールを実施しました。今後は更にパトロールを増やします。	○
24. 資源集団回収活動の拡充及び支援				
ごみ対策課	再生資源集団回収助成事業	新規活動団体の登録増（目標：H19 比 10 団体増）	新規団体の登録（6 件）を行いました。頭打ち状態なのか、目標数には届きませんでした。	△
ごみ対策課	カレットびん集団回収（再生資源集団回収助成事業）	実施団体数の増（目標：H19 比 5 団体増）	研修会等で団体登録を呼びかけるも、頭打ち状態なのか、目標には届きませんでした。	△
25. エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器・設備の導入の推進				
管財課	エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器の導入促進	冷暖房設定温度の遵守 夏季 28℃ 冬季 20℃	庁舎熱源を重油から天然ガスに更新、市民サービス向上と環境に優しい改修ができました。	◎
斎場管理センター	公用車の小型化	公用車の小型化	公用車の小型化でガソリン使用量を減らし、環境にやさしい事業を行うことができました。	○
大久保市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	会議室利用者へマナー向上を呼びかけることで、職員の環境意識も向上しました。	○
魚住市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	職員の呼びかけにより、会議室利用者の不要な空調利用の申し込みが減りました。	○
二見市民センター	会議室利用者のマナー向上	ごみ持帰り・適正温度の空調使用・不要な照明の消灯を徹底する	不要な照明の消灯を実施し、会議室利用者にポスター掲示による啓発を行いました。	○
地球環境課	地球温暖化対策推進事業	地球温暖化対策実行計画の推進と、同地域推進計画の調査研究	実行計画に基づき、年次報告書で H19 年度の市役所 CO ₂ 排出量を公表などを行いました。	○
浄水課 工務課	原浄水施設整備事業 配水施設整備事業	浄水場等の電気使用量を 27,500 千 kWh にする（H15 年度比 5%削減）	効率的な運転により、電気使用量は約 25,500 千 kWh になり、目標を達成できました。	◎

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=—

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
26. 自然エネルギー、未利用エネルギーの利用促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト)	・自動販売機調査方法の確立 ・省エネ運転マニュアルの作成	毎月 1 回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
明石クリーンセンター	焼却施設運営事業	タービン発電機の高効率運転による発電維持（発電利用率 70%）	焼却施設の適正な運転管理により、目標を大きく上回る利用率を維持できました。	◎
27. 公共交通機関の利用促進				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト)	・自動販売機調査方法の確立 ・省エネ運転マニュアルの作成	毎月 1 回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
道路計画課	駅周辺整備事業	駅周辺整備により、公共交通への転換を図る(3事業の整備)	駅周辺整備事業について、調整や状況に応じた計画の修正を行いながら取り組みました。	△
道路計画課	コミュニティバス運行事業	コミュニティバスによる公共交通機関の利用促進を図る(年間 750,000 人)	年間利用者数は 717,971 人と、目標比 95.7% でした。運行内容の見直し等を行います。	△
運輸課	交通事業	バス利用促進啓発運動の実施	9 月 20 日のバスの日に、車内吊り下げ広告の掲示、明石駅で啓発運動に取り組みました。	○
28. 自動車の適正な利用の推進				
環境保全課	環境共生啓発事業	自動車公害防止啓発事業の実施	自動車公害防止に係る啓発について、当初の計画どおり実施することができました。	○
道路計画課	道路整備事業	道路整備(6 路線)整備により、環境への負荷を軽減する	目標の道路整備について、2 路線が完了し、残りは継続し早期完成を目指します。	△
道路計画課	交通安全啓発・教育事業	交通安全教育・啓発活動(年間 100 回)により市民の意識向上を図る	交通安全教室、ビデオ貸出等を行い、年間で 102 回と目標比 102% を達成しました。	○
29. 低公害車の普及促進				
管財課	公用車への低公害車の普及促進	ガソリン使用量の抑制	アイドリングストップ、自転車利用等を徹底、3 台増車にも関わらず使用量は抑制できました。	◎
地球環境課	EMS 運用事業 (低公害車導入計画)	計画に基づき、低公害車の導入評価ポイント 12% を達成する	導入評価ポイント 12% を達成、公用車購入の際は低公害車導入の確認(12 件)を行いました。	○
水道部 総務課	低公害車の普及促進	車両入替時に低公害車を導入、職員に環境に配慮した運転を周知	入替車両 5 台を低公害車とし、職員安全期間には安全運転の励行を職員に周知しました。	○
消防本部 総務課	消防団施設整備事業	積載車の計画的整備、既存車両の安全運転で、環境保全に努める	受注者と連絡を密に取り、計画どおり積載車 3 台を更新、環境保全に努めました。	○
警防課	消防車両整備事業	規制対象車を更新、適合車両を適正に運行して環境保全に努める	水槽付消防ポンプ自動車の 2 台について、計画どおり更新し、環境保全に努めました。	○
30. 透水性舗装の導入による地下水の涵養				
管財課	エネルギーの使用抑制、省エネルギー機器の導入促進	冷暖房設定温度の遵守 夏季 28℃ 冬季 20℃	庁舎熱源を重油から天然ガスに更新、市民サービス向上と環境に優しい改修ができました。	◎
31. 貴重な動植物の生息・生育地、樹木・樹林の保護指定				
地球環境課	環境基本計画等推進事業 (エネルギーに関するプロジェクト)	・自動販売機調査方法の確立 ・省エネ運転マニュアルの作成	毎月 1 回の定例会で目標について議論したほか、エコドライブの講習会等を開催しました。	○
32. 海域・砂浜等の保全及び河川環境の改善				
農水産課	栽培漁業推進事業	定着性の高い種苗を好適地に放流する	目標のヒラメ、ホコゼ、産卵用カサゴの他、カサゴ、マコガレイ、マガイ、ウチノサキ等を放流できました。	◎
海岸課	海岸施設維持管理事業	海浜地・海浜利便施設を清掃・維持管理し、憩いの海岸環境を維持	海浜地の清掃実施により、市民が憩える海岸環境を維持することができました。	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3 点=◎、2 点=○、1 点=△、0 点=×、実施済み=ー

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
3 2. 海域・砂浜等の保全及び河川環境の改善				
海岸課	夜間花火規制推進事業	環境基本条例に基づき、夜間花火規制を行う	のぼり設置、啓発放送、巡回警備による規制・啓発を行い、生活環境保全を図りました。	○
海岸課	アカウミガメ保護関連事業	関係機関と協力して、産卵された卵の保護、ウミガメ会議等を行う	明石で日本ウミガメ会議を開催、ウミガメ保護等を「明石宣言」として全国に発信できました。	○
海岸課	港湾環境美化事業	清掃の実施	東播磨港海岸、南二見防潮堤の清掃を実施し、港湾区域の環境美化に取り組みました。	○
下水道管理課	河川美化事業	河川区域の雑草を除去	県所管の2級河川(7河川)区域の雑草除去を行い、河川環境美化に取り組みました。	○
下水道管理課	排水路浚渫事業	河川水路の汚泥の除去、草刈	河川水路の汚泥除去、草刈を予定通り実施し、地域の生活環境保全に取り組みました。	○
3 3. ため池の保全及び整備				
農水産課	土地改良事業	明石市ため池協議会の充実	新たな協議会設立にむけて話し合いを継続してきましたが、設立に至りませんでした。	△
農水産課	土地改良事業	ため池清掃ボランティア“ため池清掃志隊”の組織化	積極的に清掃ボランティア募集を打ち出し、参加者が5名増えて、清掃志隊は30名になった。	○
緑化公園課	公園維持管理事業	中尾親水公園の維持管理	水質浄化のため池周辺清掃、噴水ポンプ点検を実施、水景設備の保守管理を行いました。	○
3 4. 里山等の市街地周辺の樹林及び市街地における樹木の保全				
緑化公園課	公園維持管理事業	オープンスペースを都市公園として担保し、景観の保全・創造を進める	樹木の剪定等により、見通しの良い公園とし、利用者の安全向上に取り組みました。	○
3 5. 学校や地域が一体となったビオトープづくりの推進				
下水道施設課	浄化センター維持事業	・美化の推進	水のリサイクルを行う親水施設として開放しており、せせらぎ公園の清掃、草刈を行いました。	○
学校教育課	環境体験事業	本年度実施17校で情報交換をし、特色ある活動の推進、充実を図る	実施計画の作成、事前学習を経て事業実施、担当者会で次年度の方向性を決定しました。	○
学校教育課	環境教育・環境学習の推進	環境副読本を活用し、各校の特色を生かした環境学習を実施する	小・中学校に配布し、小学校では環境体験事業の事前学習資料として活用できました。	○
体育保健課	学校園庭芝生化推進事業	新規2校(小学校1, 中学校1)、拡張2校(幼稚園1, 小学校1)の実施	子どもたちが遊びたくなるような環境づくりとして、予定通り芝生化を行いました。	○
3 6. 減農薬農業の普及推進				
3 7. 公園や緑地の整備と拡充の推進				
3 8. 地域住民による自主的な住環境の保全の推進				
都市計画課	地区計画推進事業	住環境の保全や良好なまちなみの形成を図る	コミソ・自治会等へ積極的に地区計画制度の説明PRを実施、活発な意見交換を行いました。	○
3 9. 公共下水道整備事業の推進による公共用水域の水質保全				
環境第1課	し尿収集運搬事業	適正な、し尿収集運搬の実施	市民からの要望に応じて、適正にし尿の収集運搬が実施されました。	○
環境第1課	清掃総務一般事務事業(浄化槽の啓発)	浄化槽の適正な維持管理を指導・啓発する	浄化槽の不適切管理者に、適正な管理の指導を行い、必要性について理解を得ました。	○
下水道総務課	貸付金、助成金事務事業	水洗便所改造・浄化槽廃止の工事実施者に助成金の交付等を行う	地元説明会を行い、水洗化の理解を得ました(助成金交付303件、資金貸付11件)。	○
下水道総務課	安全衛生委員会事務事業	定期的に施設の安全点検を行い職員的安全意識を向上させる	毎月の安全衛生委員会、年4回の安全パトロールを実施し、安全意識の向上を図りました。	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=ー

部課名	事務事業名	H20 年度目標（環境目標）	取り組み内容・成果	達成度
3 9. 公共下水道整備事業の推進による公共用水域の水質保全				
下水道管理課	管渠更生事業	開削工法の改築工事で、下水道管路施設の新たな耐用年数を確保	老朽管調査を実施し、腐食度・危険度等による優先順位を付け、改築工事を行いました。	○
下水道管理課	水洗便所普及事業	未水洗化世帯等に対する水洗化の普及促進を図る	未水洗家屋を戸別訪問し水洗化を勧奨(年間8,980件)、うち水洗化戸数は657戸でした。	○
下水道施設課	浄化センター維持事業	機器更新時、低動力機器を採用し省エネルギー化を図る	使用エネルギーの少ない汚泥脱水機を採用、処理量増加に伴う電気使用量を抑えました。	○
下水道施設課	浄化センター維持事業	放流水質がこれまでの変動範囲内となるよう、維持管理を行う	季節変動に応じた水処理を行い維持管理を行った結果、水質の苦情は出ませんでした。	○
下水道建設課	下水道整備事業	市街化調整区域等(清水新田他)の水洗化促進	汚水管未整備区域解消に向けて地元調整等を行い、3地区で工事を実施できました。	○
4 0. 道路その他公共施設や工場等での樹木等の植栽による緑化の推進				
緑化公園課	緑化推進事業	家庭等で不要となった樹木のリサイクル(目標:150本)	家庭等の不要な樹木を無償で引受け、目標を上回る232本を公共緑化に活用できました。	○
4 1. 建築行為や屋外広告物の景観に対する指導・助言				
道路管理課	屋外広告物簡易除却事務事業	関係機関との合同パトロールを実施	除去作業(年間:10,189件)の実施、合同パトロール等により、違反広告物を撤去できました。	○
都市計画課	景観形成事業	明石市都市景観形成基本計画改訂案の作成	次年度のパブリックコメント実施に向け、都市景観形成基本計画改定素案の作成を進めました。	△
4 2. 駐輪場の整備と放置自転車、違法駐車等の防止対策の推進				
放置自転車対策課	違法駐車防止対策事業	道路交通の円滑化と都市機能の維持・増進を図る	毎日のパトロール実施等により、違法駐車車両に対して、指導・啓発を行いました。	○
放置自転車対策課	放置自転車対策事業 (放置自転車の整理・撤去・保管)	公共の場所での自転車等の放置を防止し、生活・交通環境を保持	平日に加え、土曜日にも市内主要駅の禁止区域等で放置自転車等の移動を行いました。	○
4 3. 有形・無形・民俗文化財等の指定と保存の推進				
社会教育推進課	文化財保護調査・啓発事業	遺跡、史跡、天然記念物等の指定と保存推進	文化財の案内板4本・標柱3本を修繕し、市内初の県登録文化財を記者発表しました。	○
4 4. 埋蔵文化財、文化的景観等の保護意識の啓発				
社会教育推進課	文化財保護調査・啓発事業	市民の文化財保護意識の啓発と「発掘された明石の歴史展」開催	「発掘された明石の歴史展」は過去最高の観覧者を記録、明石の文化財をPRできました。	○
4 5. 歴史的市街地における建物を中心とした景観整備、歴史的まちなみの保全				
道路計画課	電線共同溝整備時事業	電線類地中化による良好な都市景観形成、安全な歩行空間の確保	電線類地中化について、今年度は関係機関との調整が済み、工事を進めています。	○
都市計画課	景観形成事業	都市景観に対する啓発事業の実施	わがまちあかし十景のカンパ、名刺台紙等を生かした啓発やワークショップイベントを行いました。	◎
その他				
政策室	大規模小売店舗立地法に基づく意見調整に関する事務	法に基づく意見調整により、地域の生活環境保持に資する	条例対象外の井戸設置にあたって、条例に準じて届出するよう適切に指導できました。	○

※目標達成度：各部局の年間自己評価 / 3点=◎、2点=○、1点=△、0点=×、実施済み=—

明石市環境レポート 2009

平成 20 年度年次報告書

平成 21 年 10 月発行

編集・発行

明石市環境部地球環境課

673-0882 明石市相生町 2 丁目 5 - 1 5

明石市立保健センター 4 階

TEL:078(918)5029 FAX:078(918)5107

e-mail : plan-ems@city.akashi.hyogo.jp

生物多様性戦略(基本計画)の検討について (平成 21 年 5 月 26 日)

計画策定の期間：平成 21 年～平成 22 年夏ごろ

自然環境部会開催予定回数 計 6 回

【実施予定時期と検討の内容】

- | | | |
|--------|------------------|---------------------------|
| 第 1 回目 | 平成 21 年 5 月 26 日 | 戦略策定の進め方・戦略の構成について |
| 第 2 回目 | 平成 21 年 8 月下旬 | 生物多様性の保全と課題について |
| 第 3 回目 | 平成 21 年 11 月下旬 | 絶滅危惧種、希少種対策、外来種対策について |
| 第 4 回目 | 平成 22 年 2 月下旬 | 実施計画(戦術)について |
| 第 5 回目 | 平成 22 年 4 月下旬 | 戦略(案)のとりまとめ |
| 第 6 回目 | 平成 22 年 5 月下旬 | 戦略の最終とりまとめと内容確認 |
| | 平成 22 年 6 月 | パブリックコメント |
| | | (重要な意見のある場合)必要に応じて打合せ会議開催 |
| | 平成 22 年 7 月下旬 | 環境審議会へ報告・審議 |

第38回 明石市環境審議会

日時 平成21年8月17日（月）午後3時00分

場所 サンプピア明石5階フロイデホール

○事務局B 失礼いたします。

定刻を過ぎておりますので、第38回の環境審議会を始めさせていただきますと思います。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

まず、始めさせていただきます前に、人事異動に伴う事務局の異動についてご報告させていただきますと思います。

（事務局の紹介）

それでは、議事に入りますまで私のほうで進行させていただきますので、よろしくお願いいたしますと思います。

最初に、お手元にお配りしております資料についてご確認をさせていただきますと思います。

まず、A4の1枚物、本日の環境審議会の次第でございます。その次に、資料1といたしまして、「明石市環境審議会委員名簿」というタイトルが入ったもので、これもA4の1枚物の資料でございます。それから、次に、資料2といたしまして、「平成20年度 年次報告書について」というものと、そのセットもので、別紙になっておりますが、「明石市環境レポート2009(素案)」というA4の冊子でございます。それから、一番最後に、資料3といたしまして、「生物多様性戦略（基本計画）の検討について」ということで、資料といたしましては以上5点が皆様の前に配付されております。よろしいでしょうか。漏れとかないでしょうか。ありましたら申し出ていただきたいと思います。大丈夫でしょうか。

それでは、開会に先立ちまして、環境部長からごあいさつを申し上げます。

部長、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 A 今年度初めての環境審議会ということでございますので、私のほうから若干、開会のごあいさつをさせていただきます。

委員の皆様、お暑い中、またお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。このところ、異常な大雨が続いておりますけれども、防府市とか兵庫県の西とか北部のところで豪雨による災害が発生しておりますし、本市といたしましても職員を派遣しておりますし、環境部のほうでは、ごみ収集のほうでも佐用町に派遣をしております。

きょうは、式次第にもありますように、毎年ご審議いただいております年次報告、その素案ができております。それから、前回の審議会の委員さんのほうで、昨年のおとき、年次報告をご審議いただきましたが、その辺のご意見も参考にしまして改善もしております。それは後でまたご説明させていただきますまして、審議いただくわけでございます。

それから、生物多様性の明石戦略の策定につきましても、自然部会のほうでご審議をいただいております。その辺の報告もあわせて本日の審議会ですさせていただきます予定でございます。

2時間の中でいろんな貴重なご意見もいただきながら、私どもも参考にしていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

以上でございます。

○事務局 B どうもありがとうございました。

本日の環境審議会でございますが、審議会委員13名中12名の出席というご報告をいただいております。過半数のご出席ということでございまして、定足数を満たしておりますので、本日の会議は成立しておりますことをご報告申し上げたいと思います。

それでは、次第に基づきまして、これより議事に移りたいと思います。

環境基本条例施行規則第23条により、会長が議長となることになっております。

それでは、議事進行のほど、よろしく願いいたします。

○会長 皆様、こんにちは。本日はほんとうに炎天下の中、そして、お盆明けが一番気が重い中、審議会委員13名中12名の方にご出席いただきまして、ほんとうにありがとうございます。せっかくの貴重な2時間で有意義な議論ができますようにご協力をよろしく願いいたします。

それでは、まず、次第に基づきまして、資料1をごらんください。

資料1は審議会委員名簿なのですが、委員について事務局からご報告をよろしくお願いいたします。

○事務局B それでは、ご報告させていただきたいと思います。

まず、本審議会の委員構成でございますけれども、変更がございます。

まず、このたび、審議会委員に関する、これは市議会の決定により、議員による委員が廃止されることになりました。したがって、市議会議員の4名の皆様は委員を解職されまして、今回の審議会から出席はいたしておりません。

続きまして、事業所の委員についてでございますが、従前より、川崎重工業株式会社明石事務所さんからは所長さんが委員にご就任いただいていたわけでございますけれども、このたび、川崎重工業株式会社明石事務所さんからの申し出がございまして、諸般の事情により委員をご辞退されておられます。

これによりまして、前回までは委員数18名でありました本審議会でございますが、現在のところ、13名の構成となっております。

(人事異動による新委員の委嘱について説明)

本審議会の委員構成につきましてご報告させていただきました。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

では、本日の審議会のメインテーマについてご説明させていただきたいんですが、議題は大きく2つございます。1つは、皆様のお手元の議事次第の3にあります平成20年度年次報告書について。これは資料2としております「明石市環境レポート2009(素案)」というものについてでございます。もう1つは、自然環境部会の活動報告についてということで、先ほどまで行われておりました生物多様性戦略の検討についての部会長様からのご報告がある予定になっております。

まず、平成20年度年次報告書についてなんですが、これにつきましては、資料2のところの一番最後の「5 今後の予定について」という

ところをごらんいただきたいんですが、ごらんいただきましたでしょうか。そこをごらんいただきますと、今後の予定についてということで、8月下旬に「明石市環境レポート2009（案）」をホームページで公表し、市民意見を募集、10月にこれを公表ということになっておりますが、本日の議論は、8月下旬にホームページで案を公表するに当たって、素案がこれでいいのかどうかということをご審議いただくということでございます。つまり、根底からひっくり返すということは難しいかと思うんですが、市民の皆様にご理解いただくために、こういうふうに言ったほうがわかりやすいのではないかとか、ちょっと重要なことが抜けているとか、そのような、この素案につきまして、皆様のご意見でよりよいものにするためにこういうふうにしたらいのではないかというご意見をいただきたいということでもあります。

それでは、この案につきまして事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局D 失礼いたします。

平成20年度の年次報告書（素案）につきまして説明をさせていただきます。

それでは、お手元に配付させていただいております資料2「平成20年度 年次報告書について」をごらん願います。失礼して、座って説明をさせていただきます。

順番が前後してしましますが、まず、今年度、平成20年度年次報告書の考え方についてという3番をごらんいただけますでしょうか。

年次報告書の主な掲載内容であります明石市環境基本計画の推進状況、地球温暖化対策実行計画に基づく市役所の温室効果ガス排出量の公表、明石市環境マネジメントシステムの状況等について、昨年度の環境審議会において項目ごとのつながりが少々わかりにくいというご意見をいただきましたので、今年度の年次報告書につきましては、各項の関連について冒頭で関連図を掲載させていただいて、構成も修正しております。また、内容の第5章の明石市環境マネジメントシステムにつきまして、今年度の報告書から市役所の各部署の取り組みの具体例を掲載させていただき、巻末に掲載させていただいております事業評価表につきましても、取り組み部署及び達成度を明記するように改めております。

続きまして、1番、年次報告書についてでございますが、年次報告書は、「明石市の環境の保全及び創造に関する基本条例」の規定に基づいて、環境基本計画の適正な進行管理を図るため、明石市が環境の保全及び創造に関して講じた施策の状況等の報告書を作成し、毎年度公表するものです。

続きまして、2番、昨年度までの年次報告書についてでございますが、昨年度の年次報告書から、年次報告書とその概要版である環境レポートを一本化し、年次報告書を市民の皆様にとってよりわかりやすく、読みやすい形に改めております。環境審議会で年次報告書（素案）を諮った上で、市民の皆様からのご意見を募集し、昨年は冊子として12月末日に公表しております。

済みません、4番も後ほどご説明をさせていただきますけれども、次に、5番、今後の予定についてでございます。

今後の予定につきましては、会長から先ほどご説明いただきましたが、この審議会でもいただいたご意見を反映した「明石市環境レポート2009（案）」をホームページで公表して、市民意見を募集させていただきます。それが8月下旬ということで、その後、10月、「明石市環境レポート2009」及び「市民意見とその措置対応」について取りまとめをさせていただきます、10月に公表を予定しております。

続きまして、4番、年次報告書についてということで、原稿の内容なんですけれども、資料2別紙「明石市環境レポート2009（素案）」をごらんいただけますでしょうか。

まず1ページ目、市長あいさつにつきましては、現在、修正予定と入っておりますが、公表段階で掲載させていただきたいと存じます。

続きまして、2ページでございますが、編集方針、主な関連資料の紹介をさせていただいております。これらの関連資料につきましては、環境部地球環境課のWebサイト「エコイスト」からごらんいただけます。

続きまして、3ページでございますが、明石市環境基本計画の「めざす環境像」と、環境像実現のための推進体制としまして、市民、事業者、行政の取り組みの関連図を掲載しております。こちらが、先ほどもご説明させていただきましたように、冒頭での関連図の掲載というものでご

ございます。

続きまして、4ページからでございますが、めざす環境像実現のための取り組みとしまして、環境基本計画を推進するパートナーシップ組織「エコウイングあかし」の取り組みを掲載しております。4ページにつきましては、「エコウイングあかし」全体での取り組み、また、続きまして、5ページから10ページにかけては、「エコウイングあかし」のライフスタイル、エネルギー、自然の3つのグループごとに平成20年度の取り組みを掲載させていただいております。

続きまして、11ページでございますが、こちらは、明石市役所の取り組みとしまして、明石市環境マネジメントシステムの取り組み状況を報告しております。明石市では、平成19年3月から認証登録機関によるISO14001の登録を返上し、規格の適合性をみずから判断する「自己宣言」の方式へと移行しております。

この移行に伴いまして、環境マネジメントシステムの透明性、信頼性をより高めていくために、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、明石市の5市による相互環境監査システムを構築し、平成20年度につきましては、尼崎市、西宮市の職員の方に明石市内部環境監査に参加していただき、明石市から尼崎市、宝塚市の監査に参加しております。

12ページからでございますが、12ページから15ページにかけては、明石市環境マネジメントシステムにおける平成20年度の市役所の各部署の取り組みにつきまして成果を掲載しております。特にこの中で14ページをごらんいただけますでしょうか。

こちら、部局での取り組み「地球環境行動」、これにつきましては、平成20年度から開始した新たな取り組みでございます。市の部局ごとに地球環境への負荷を低減するための行動としまして、目標を設定し、達成に取り組んでおります。

なお、この14ページの「地球環境行動」、15ページの「環境に有益な事務事業」につきましては、市民や事業者の皆様とともに取り組んだ事例を具体例として掲載しております。また、この一例で紹介できなかったほかの取り組みにつきましては、すべて23ページから最後の30ページにかけて、事業評価表としまして一覧を掲載させていただいてお

ります。

環境マネジメントシステムの項目につきましては、最後、16ページでございます。平成20年度の内部環境監査の状況、及び市長によるシステムの見直しについて掲載しております。

続きまして、17ページから18ページにかけて、自然環境再生への取り組みとしまして、ため池や里山、河川、海岸、海域での明石市の取り組みをご紹介しております。

次に、19ページから21ページにかけてでございます。

明石市地球温暖化対策実行計画における明石市役所の温室効果ガス排出量の公表と、市役所の地球温暖化防止の啓発活動の取り組みについて掲載をしております。

この計画につきましては、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいて、明石市の事務事業から排出される温室効果ガス排出抑制のために策定をしており、平成19年3月に改定をしております。改定版の実行計画では、平成22年度における市役所の温室効果ガス排出量を平成17年度と比較して6%削減に努めることを目標にしております。

なお、平成20年度につきましては、電気使用量、公用車の走行等が減少傾向にありまして、平成17年度（基準年度）と比較して9.5%の削減となっております。

続きまして、22ページをごらん願います。

こちらでは、環境首都コンテストの取り組みについて紹介をしております。

環境首都コンテストとは、全国の自治体が参加して、環境問題に取り組む全国のNGOが理想とする自治体像をもとに設定された設問に回答し、順位を決定するコンテストです。

明石市では、前回から4年ぶりに参加しました。結果は、総合では67自治体中18位、人口規模別では23自治体中7位と、前回よりも順位が向上し、環境についての理想の自治体像に近づく結果となっております。

最後に、先ほどもご紹介させていただきましたが、23ページから30ページにかけまして、明石市役所の各部局での取り組み、地球環境行

動と各課での取り組み、環境に有益な事務事業につきまして、取り組みの一覧表を掲載しております。

なお、評価は各部署の自己評価になっております。下にも掲載しておりますが、◎につきましては期待を上回る、○につきましては期待どおりである、△につきましては期待を下回る、今回はなかったんですけれども、×につきましては未実施である、－につきましては完了済みということになっております。

この中で、△、期待を下回るという評価のところは幾つかあるんですけども、こちらにつきましては、平成21年度の目標設定時に修正を加えるなどして改善に取り組んでおります。

以上が「明石市環境レポート2009（素案）」の内容でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

ただいまご説明いただきましたとおりなんですが、2ページの下の方に書いてありますように、詳細な情報につきましてはWebサイト「エコイスト」を見ていただくということになっておりまして、このレポートでは非常に簡潔に取り組みなどをまとめていただいているということでございます。

本日、「エコウイングあかし」の委員Eさんにもご出席いただいているわけなんですが、まず全体からといたってもご発言いただきにくいと思いますので、少しずつ区切って伺いたいと思うんですが、3ページのところが昨年度の皆様のご意見をいただきまして、各章のつながりがよくわからないので、個々の章がどういう関係にあるのかということに関連図としてまとめていただいているということでございます。

その冒頭のところが非常に大事なわけなんですが、まず、2、3ページにつきまして、これはわずかなスペースなんですが、何かここで重要なところのご意見がございましたら、よろしくお願いいたします。

では、また戻ってでもご発言いただいたらいいと思うんですが、続きまして、4ページ以降のマネジメントシステムの前のところ、10ページあたりまでにつきましていかがでしょうか、何かご意見がございましたら。こういうふうに表示したほうがわかりやすいとか、こういう大事

なことが抜けているとか、何かそういうことがございましたらよろしく
お願いいたします。

ここの4ページのところは「エコウイングあかし」さんのリーディング
プロジェクトを中心にまとめていただいているわけなんです、「エコ
ウイングあかし」というのは、ご存じのとおり、環境基本計画を推進す
るための組織で、市民、事業者、行政の三者が協働して、環境基本計画
に掲げるリーディングプロジェクトに取り組んでいただいているという
ことでございます。主な活動内容が紹介してあるわけなんです、いか
がでしょうか。

では、委員Eさん。

○委員 E ライフスタイルとエネルギー、それから自然ということで3つのワー
キンググループに分かれております。それぞれのワーキンググループに
リーディングプロジェクトが幾つかずつ入っているわけですが、その
まとめはそれぞれのワーキンググループのリーダーがやりました。各ワ
ーキンググループのまとめというのは既に我々の中でやって、これを提
出したので、あまり大きな問題はないと思っております。表現について
もこれでいいんじゃないかなと私は思っております。

○会 長 私も、これは随分うまくまとめて、簡潔にまとめてくださっているな
と思うわけなんです。先ほど報告を既にまとめてくださっているとい
うことなんです、そういうのをもう少し詳しく見たいという場合は、
例えばホームページ、先ほどのWebサイト「エコイスト」などで見れ
るわけですか。そういうことになっているのでしょうか。

○事務局 C エコウイングさんの活動の詳しいまとめにつきましては、今現在、エ
コウイングさんのほうでホームページで各取り組みについてご報告でき
るように、ホームページの構成を検討していただいているところで、具
体的な作業につきましては、報告が各ワーキンググループさんから上が
ってき次第、ホームページに掲載される予定となっております。また、
そのあたりにつきましても、私どもの地球環境課のホームページで適時
ご紹介させていただきたいなと思います。ちょっとその作業をお待ちい
ただきたいなと思います。

○会 長 つまり、ホームページから入れれば必要なところが見れるような状態に

なるということですね。

○事務局C　そういうふうにできるように今作業を進めているところでございます。

○中野会長　ありがとうございます。

これはほんとうに簡潔にうまくまとめてくださっていると思うんですが、何かほかの委員の皆様、こういうふうにしたほうがいいじゃないかというご意見をいただけましたら幸いです。

○委員A（部会長）　明石環境マイスター制度というのがあるようなんですが、これは、実際の活動はごみの減量などを進めるということのようなんですが、マイスター養成講座のテキストづくりだとか講座を開催するということは書いてあるんですが、どうもマイスターになるには環境資格制度の合格者でないとマイスターでないようなんですが、これはやっぱりちゃんと検定試験のようなものを行っておられるのか、それとも、講座を何回か修了すればマイスターと認定して、証書を渡されるのかどうか知りませんが、何かそれは1つの公的な資格として明石市の中ではこういう取り組みができるような、そういう制度なんでしょうか。その認知度。

○会　長　マイスターの認知度と、どれぐらいのレベルのものなのかと。

委員Eさん、よろしくお願いします。

○委員E　今のところ、マイスター制度について、まだ試行段階で、いろんな環境フェアだとか、そういうところで一般の市民が集まるときに、我々がブース、展示をしておりますので、そのブースを見ていただいて、その中から出題できるような問題を拾い上げて、それを一般の人に試して、どのぐらいのレベルにあるかということを知ろうとしています。それによって問題集をつくって、その問題をクリアされた方についてはマイスターという称号を与えたい。そのことについては、今のところ、マイスター制度が発足したという段階であって、現在、その人たちがその資格を持ったらどんなことができるのかとか、その辺のことはまだ決まっておられません。まだ進行中ですので。

○会　長　ありがとうございます。つまり、何か気づきのきっかけになればいいというものなんですね。ドイツのマイスターなんかものすごく厳しいですけどね。ですから、例えば自然環境のマイスターなどができたらいい

ですね。何かアイデンティティーを持っていただいて、気づいて、何か行動になる核になっていただくような方を養成すると。

○委員 E その人が行動を起こすときに、やっぱりマイスターという資格を持っておれば、それだけの自覚を持って動くんじゃないかというところがスタートです。自覚を持たせるというところで。

○会長 自覚を持っていただくとともに、ほかの皆様からそういう一定の目で見られるというものです。よろしいでしょうか。

○委員 A（部会長） はい。

○会長 ほかに何か、10ページあたりのところまでで。
副会長。

○副会長 3つのグループの取り組みがそれぞれありまして、これを見た人が、興味があつてアクセスしたいなというときに、ホームページを見ないはどうしようもないのかと。問い合わせ先とか、何かあつたほうがいいのではないかと思うんですけど、いかがでしょうか。ホームページというのは必ずしもみんなが使いやすいものではありませんので、やはり連絡先とか、例えば何号の広報のどこを見なさいとか、何かそういう情報があつたほうがいいと思いますけど。

○会長 そうですね。ほんとうに今、IT弱者のことが世間でも随分問題になっておりまして、ほんとうに実際に汗をかいてくださっている方がご高齢という場合の方が多いんですけど、ホームページといたつて、家にパソコンがない方もいらっしゃいますし、こういうことに関する情報を得る手段として、ホームページ以外の媒体がないのかということなんですけど、いかがでしょうか。

○委員 E これは今年既に環境フェアを開きましたし、今年もう1回開く予定なんですけれども、その環境フェアでエコウイングへの加盟者の募集をやっております。それは、今のところ、今年は2回しかないんですけども、そのほかに、エコドライブの講習会とか、そういうふうな催しをやつたときに、集まっていたときに入会の申し込みができるというところになっています。やはり、今のところは、ホームページということで1つの期待はあるんですけども、全部がホームページを見るわけじゃないですから、もっと広くエコウイングというものについてPRを

やっぴかねばならないと。これは「広報あかし」なんかでもスペースを割いていただいて、エコウイングについての関心を深めてもらいたいという希望があります。

○会 長 ありがとうございます。

○事務局C 会長、よろしいでしょうか。事務局からです。

○会 長 どうぞ。

○事務局C 従来もIT関係に詳しくない方のために印刷物を配付したりですとか、接続環境が不十分でアクセスするには重たい環境なんですという方用にCDを焼いてお渡ししたりとかいうことをしておりますので、あらかじめ幾つかそういうものはご用意させていただきたいと思ひますし、お申し出がありましたら柔軟に対応して、印刷物なりをお送りするようにさせていただきますたいと思ひます。

また、1ページに問い合わせ先というのを書いてありますけれども、もう少し親切にさせていただきますたいと思ひます。2ページのところにも、「印刷物とかCDについては、お申し出がありましたらお送りさせていただきます」という文言を入れさせていただきますたいと思ひます。

○会 長 そうですね。ぜひ、2ページの「エコイスト」が書いてあるところの下の欄に、ほかの媒体の方法をお知らせいただくとともに、先ほど委員Eさんからもお話しいただきましたように、「広報あかし」などの手段を使っても多方面から情報を得るチャンスを広めていただきたらと思ひます。

○事務局C できるだけチャンネルを広げるようにいたしたいと思ひます。

○会 長 そうですね。よろしいでしょうか。確かに、何でもホームページと言ってしまうんですけど、ホームページそのものを見られない方って結構いらっしやいますからね。

では、10ページ、マネジメントシステムの前までのところはこれでよろしいでしょうか。また戻っていただいても結構ですが。

委員Bさん。

○委員B ちょっと文言なんですけれども、9ページの自然関係の、そのリーディングプロジェクトですか、そのLP13.自然環境ナビというところの「明石の自然・天然資源情報」と。一般に天然資源というのは鉱物

資源とかそういう形で使うもので、これは動植物であるとか、または環境そのもの、里山がありますとか、そういう情報のことだと思うので、天然資源情報という言葉だけを抜き出してしまうと、意図しているのとはちょっと言葉が違うのではないかと。だから、具体的に言いにくいことを天然資源というふうにまとめるのではなく、本来の天然資源というのはほかにある言葉だと思えますので、ここは「明石の自然」にして、括弧して「(動植物、里山など)」とか。一番上のLP8のところにも「『水』(海、川、ため池…)」とあるような形で、それでいいのではないかなと思うんですけれども。ちょっとした文言なんですけれども、天然資源情報という言葉にちょっとひっかかりがあるんですけれども。

○会 長 例えば、里山とかそういうキーワードを入れたほうがわかりやすいということですね。

○委 員 B そうですね。動植物の情報であるとか、里山の情報であるとかということだと思うんですけれども。

○会 長 言葉から受ける印象で随分違ってきますので、具体的な用語を入れていただくと3段にも4段にもなるということかもわからないですけれども、天然資源というのが少し違和感があるので、もう少しこの文言を工夫したほうがいいのかもわからないと思うんですが。

○事務局 C そうですね。もともとこれは環境基本計画のリーディングプロジェクトの表現がこのようになってありましたのでそのまま書いているんですけれども、この冊子の目的そのものが、市民の方々にできるだけわかりやすくお伝えするという目的がありますので、そのあたり、委員Bさんのおっしゃられるように、誤解のないように、しかも、リーディングプロジェクトの13番というのは明石の自然のことがよりわかりやすく伝えてもらえるようなことに取り組んでもらえるんだなというのが伝わればということで、ちょっと文言を変えさせていただくなり、補足させていただきたいと思えます。

○会 長 工夫していただきますようによろしく願いいたします。

○委 員 E これは、自然と天然との真ん中に点を入れて、自然資源情報、天然資源情報、これを2つ一緒にしてしまったという、少し表現を簡略化したところの問題があったと思えます。今言われたように、もっと具体的な

ものを挙げたほうがわかりやすいと思います。

○会 長 そうですね。ちょっと抽象化し過ぎてわからなくなったという感じですね。そこはよろしく願いいたします。

委員 I さん。

○委 員 I 済みません、今の 9 ページの LP 8 から 13 まで並んでいるんですけども、これの具体的な取り組みが必ずしも 9 ページ、10 ページに書かれているというわけではないんですね。今おっしゃっていた、例えば LP 13 の取り組みの例がここに示されているのではなくて、それはホームページか何かを見れば出ています。これは代表事例だけがここに？

○会 長 プロジェクト名と。

○委 員 I はい。

それと、もう 1 点、済みません、ここの自然グループだけ今後の取り組みのところが LP 9 とか LP 8 と略して書かれていまして、できればここはもうちょっとほかのページと同じようなトーンで丁寧に書かれたほうがいいのではないかな、わかりやすいのではないかなと。

○会 長 委員 H さん。

○委 員 H 自然グループのリーダーもしておりますので、私のほうからわかる範囲でお答えさせていただきますが、自然グループとして環境基本計画を推進するとき、8 から 13 というプロジェクトができました。そのときはこれをやろうと、市民の方がそれぞれ提案されたのですが、実際に自然グループとして 6 つのプロジェクトを同時に進めるというのは人数的に難しいということで、現在、リーディングプロジェクト 8 と 9 を主に中心に動かしています。12 は、サブリーダーを中心に今少しずつ、リーディングプロジェクト 8 と一緒に動いていこうという形になっています。10 と 11 と 13 は、私たち市民としては動きとしてまだ全く進められていないということですので、具体的にここの取り組みの中にも上がってきていないという状態です。

○会 長 わかりました。そういうことがこれを見た限りではわからないので、もう少しそのことに関する説明が 2 行か 3 行でもあったほうがいいなという感じはしますね。結局、8 と 9 について現在進行形で活動が始まっている、これについてご紹介しますみたいな文言があったらわかりやす

いなということですね。ですから、リーディングプロジェクトとしてこういうものが挙げられているんだけど、そのうちに主な活動についての紹介だということがわかるような説明の仕方が必要だということでしょうか。

○事務局C そうでしたら、各リーディングプロジェクトのところに現在進行中とか取り組み中とかいうような、何かコメントを入れたりとか、あと、検討中とかいうのを入れるにいたしましょうか。

○会 長 そうですね。

ほかにここまでのところでよろしいでしょうか。

○副 会 長 細かいことですが、よろしいですか。10ページの金ヶ崎公園のところに住所が細かく書かれているんですけど、これは情報としてあったほうがいいのかという点と、それから、LP9の明石に「ふれあいの里山」というところの「IN金ヶ崎」の「IN」が9ページの上のところでは大文字になって、10ページの3行目では小文字になっているという細かい点ですが。

○事務局C 私どもで訂正させていただきます。統一させていただきます。

○会 長 これはちょっとした手直しで、そろえていただくということでしょうか、お願いいたします。

住所とおっしゃいましたか。

○副 会 長 これ、住所が書いてあるんですよ。この情報はあったほうがいいのか。ほかのところはありませんので。

○会 長 この公園の住所について、一々、1541-1まで書いてあるんですが、そういうことは必要かどうかということなんですが、いかがでしょうか、事務局。

○事務局C 我々としては、金ヶ崎公園という特定のきちんとした公園整備されたところがございますので、住所を書いたほうが親切かなと思ったんですけど、よその市の方とか、市内の方でも、こういう公園があったんだな、こういう公園でこういうことをされているんだなとかと、これを読まれて思われたときに、一体どこにあるのかなとか思われたときに、住所があったほうがいいのかなと判断して書かせていただいたんですけども、ちょっとこれが冗長過ぎて、何か長ったらしく見えるなという

ことでしたら、枠外に金ヶ崎公園、括弧して、住所はここみたいな書き方で、ちょっと表現の仕方を変えさせていただくとか、見栄えを整えさせていただきます。

○会長 そうですね。それこそこの公園の名前を入れて検索すればすぐわかることなんですけど、市内の方でしたら、あの辺というのがわかりやすいという意味で、あったほうがいいのかもわかりませんので、先ほどのご説明のように、枠外のところにでも。

○事務局C 枠外に移すなりして、見栄えをよく、すっきり見えるようにいたします。

○会長 お願いいたします。
では、よろしいでしょうか。

委員Dさん。

○委員D 同じような話なんですけど、3つのそれぞれのグループでリーディングプロジェクトを挙げているので、20年度の取り組みのタイトル、「布ぞうり教室の開催、活動のPR」でしたら、その後ろに、どのリーディングプロジェクトに対応するのかを3つのグループとも書いていただくとわかりやすいかなと思います。何か順番も違うので、そうしていただくと対応がわかっていいと思います。

○会長 その活動がどのグループに所属しているのかということがわかるようにということですね。

○委員D いえ、リーディングプロジェクトに。

○中野会長 どのリーディングプロジェクトに属しているのかということが。

○委員D 3グループともリーディングプロジェクトがどれかわかるようにしてください。

○会長 どのリーディングプロジェクトかがわかるように、どこか括弧にして。

○委員D 取り組みの名前の後ろに括弧でLP何とかと書いてください。

○会長 そうですね。そういうふうにしたほうがわかりやすいということですね。

○事務局C そうですね。どのプロジェクトのカテゴリーに入るのか、ちょっとわかりやすく関連づけるようにいたします。

○会長 お願いいたします。

では、次のマネジメントシステムのところで、11ページから16ページあたりまでのマネジメントシステムにつきまして何かご意見ございましたら、よろしくお願いたします。

委員Cさん。

○委員C 12ページなんですけれども、該当部局での取り組み「公共事業への環境配慮」ということで、土木部が目標未達でペケと。数字は大きいんですけど、色が変わっているんですけども。これについて、13ページのパフォーマンス効果のところについては、都市ガスの使用料については、下から3行目から、これこれの理由が原因ですと。都市ガスのことについては原因が書かれているんですけども、後者のほうは市役所全体での取り組みについてなんですけれども、前者の土木部が未達だということの理由、詳細になるんですけども、これは2ページ目に書かれていますように、「エコイスト」ですか、Webサイトに出ているのを見れば、それについては分析して、解析はされているのでしょうか。もしくは、この理由とか、そういうことについてはディテールでは触れられていないのか。バックデータの部分的な把握の状態、それはどういう状態かなということをお聞きしたいんですけど。

○会長 土木部のバツの理由ですね。事務局、いかがでしょうか。

○事務局C 私どものホームページで詳細なデータを上げたりとかいうのはしていないんですけども、ただ、なぜ未達であったかとか、そういうものを少しわかりやすく市民の方々にお伝えすると同時に、それを公表することによって、もう少し目標設定のあり方とか、常日ごろの公共事業への環境配慮を、もうちょっと工夫する必要があるなというものを各部の方に意識していただきたいなというのもありますので、そのあたり、もう少し原因とかを市民の方々にわかりやすいようにこの中に盛り込ませていただきたいなと思います。

○会長 この素案の中にですね。

○事務局C この素案の中に盛り込むようにいたしたいと思います。ただ、詳細なデータになりますと、かなり量が多いというのがありますし、具体的、個別的な事業とか、いろんな、公開もできるようなデータもあれば、できないようなデータとかいうのもありますので、ですから、市役所の取

り組みの姿勢として、こういうものに取り組んで、こういうことが原因で未達でした、次はこうしたいですみたいな、市民の方々にわかりやすいような形でご提供させていただきたいと思います。詳細なデータにつきましても、データの取り扱いとか量等がございますので、ホームページで公開するという予定は今のところ持っていないんですけれども、それもまたこれからの検討課題で、自主的な取り組みの1つとして役所の中で検討していきたいなと思います。

○会 長 そうですね。反対にあまり細か過ぎたって、市民が見たってわからないわけですからね。

○事務局 C あまり細か過ぎますと、このデータをどう解釈していいのかなと、またデータを解釈するための解説とかで長々とだらだらになってしまいますので、できるだけポイントを突いてわかりやすくお伝えして、お伝えすることで各取り組みを行っている部が、「もうちょっとこういうふうにしなきゃいけない」という次の意欲につながっていくようになればいいというのが目的ですので、そのあたりは配慮した書き方でこの素案に掲載させていただきたいと思います。

○会 長 よろしくお願ひいたします。

ついでに、この表の目標値との誤差という、その誤差という言葉は、違いますよね。本来の意味とは違うので、もう少し、差だけにしてしまおうか、違う言葉を入れていただかないと、誤差では全く違うことになってしまう。計算間違いみたいになってしまうので、その辺はご検討を。

○事務局 C より適切な言葉に変えさせていただきたいと思います。

○会 長 よろしくお願ひいたします。

ほかにはいかがでしょうか、このマネジメントシステムの部分につきまして。

委員 A さん。

○委員 A (部会長) 今問題になっている表なんですけれども、そもそも環境配慮率ってどういうものなのか、どういうふうにして算定・算出したものなのかとか、そういうことの説明がどこにもないようなので、わからないと思うんですよね。おそらくいろんな電気の消費とか都市ガスの消費と

か、そういうものをいろいろ、それぞれについて目標を立てられて、どれぐらい配慮するかという目標があって、実際の達成率はどれだけであったかというのがこれなんです、環境配慮率そのものがそんなに一般的な言葉ではないと思いますので、何か明石市ではこういう基準で算出している数字ですよという説明がちょっと欲しいのと、こういう表を書くときには目標と実績を書いて、その差がプラス何%であったか、マイナス何%であったかという書き方をするとこの表は非常にわかりやすくなるんじゃないかと思うんですね。

それと、ついでにもう1つ、私、非常に気になるのは、部局によって、多分、これは目標が違うということですよね、配慮率でこれだけ誤差があるというのは。そういうのもどういう事情なのかがよくわからないと。考えると、これは不思議な表だなという気がするんですが。

○事務局C 表現につきましては、わかりやすい表現に変えさせていただきたいと思います。

配慮率につきましては、これだけでは説明が足りなくて、一体何を公共事業で取り組んでいるのかなという理解を求めるのは無理だと思いますので、どういう配慮率を設定しているのかということも、後ろに詳しいものをつけるか、この中に盛り込めるようであれば盛り込むかを考えたいと思います。

それと、各部で目標の設定が違うということなんですけれども、これは各部で担っています公共事業の種類が違うんですね。土木部さんでしたら道路関係の工事が多かったりとか、橋のかけかえとかそういうものがあったりとか、下水道部さんでしたら穴を掘って下水管を入れたりとか、工事の種類によって目標の設定が変わってきますので、そういうことなんです。ただ、それもわかりにくいと思いますので、そのあたりも表現をうまくこの中に盛り込んで、どういうふうな工事についてどういうふうな目標設定していて、こういうふうな違いがあるんですよみたいなことを、市民の方々に役所の取り組みがより理解していただけるように、役所の努力が理解していただけるように、このあたり、文章を変えていきたいと思います。

○会長 当然、率ということは分子と分母の関係がありますので、それは個々

に説明したら切りがないぐらい長いでしょうから、何か簡潔に分子と分母の関係がどうなっているのかということがわかるような言葉に。

○事務局C そうですね。「一体中身はどうなっているの?」というのがイメージできるようにしたいなと思います。

○会 長 そうですね。

○副 会 長 このところで、部署単位で目標を設定して、それぞれ達成することが大事なのか、明石市の市としてトータルでこれだけ減らす、環境負荷を減らすということが目的なのか。これはマネジメントの中身によると思うんですけども、それぞれ部署単位で計画を立てて、それを達成するということがもしこのマネジメントシステムの目的であれば、ちょっと計画の立て方がまずかったというのは、これは、だから修正しましょうということにはなかなかならないと思うんですよ。そういう立て方自身の問題というのは、何かやっぱり、最初の段階で甘かったのではないかと思われるわけですね。

ただ、結果的には全体としてのトータルが目的を達成しているということ、これはやっぱり重要だと思います。このところで、こういうふうに5つに分けて書く必要がほんとうにあるのかどうか。全体の目標としてはどういうことを目指していて、それが達成されているのかどうか、そこら辺のところを書く必要があるのではないかと思うんですけども。

一番最後に、「全体での環境配慮率は82.2%と、80%以上を達成しています」と、これが最終的な目的であると考えていいんでしょうか。それとも、やはり個々に達成することがかなり厳しい目標として設定されているのかどうか。そこのところを教えてください。

○事務局C 市としてトータルに環境配慮率が上がればいいというのは、最終的な、総合した上での目標といたしますか、そういうふうな指向性を持っているということなんです。

具体的には、環境マネジメントシステムというのは、その職場職場が独自の取り組みで、独自の目標、その職場の仕事に応じた目標を掲げて継続的に改善していくというのがベースになりますので、やはり同じ公共事業と公共工事といたしましても、それぞれの部で内容が大きく違いますので、個々に目標を掲げて、個々に管理をしていただくと。それを、

この部はこれだけの目標を達成できましたということを公表していくと。そういうふうな取り組みを行いながら、計画が甘かったからちょっと取り組みが足りなかったかな、次はこういう工夫があるんじゃないかというのを各部でやっていただくことがその部での継続的改善につながり、それが集約されて市としての継続的な改善の向上につながっていくと。

ですから、全体としても環境配慮率の向上に努めてはいるんですが、やはり個々の取り組みを各部で継続的改善というものに一生懸命取り組んでいただきたいというのがEMSの取り組みの主眼としてはあります。

○副会長 そうなりますと、目標を高く設定していたためにというのはものすごく言いわけに聞こえるんですよ。それは、やはり当然、最初の段階で努力の目標というのはきちっと設計されるべきであって、何となく言いわけっぽく聞こえるんですけれども。

○事務局C 申しわけございません。ここの「目標を高く設定していたために」という表現がまずかったなと思うんですが。といいますのは、今年度についてはこういう配慮率の目標でいこうと各部が目標を掲げるんですけれども、実際に工事をやってみますと、例えば再生資源をこれだけ使おうと思っても、この工事箇所にはその資源、その再生した材料を使うにはふさわしくないと、そういう判断をしなければいけないこともありますので、予定した再生資源、再生したのを、砕石とかそういうものを使えなかったとか、そういうことがあったりとか、環境に配慮した材料を使いたかったけれども、工法上それを使うわけにはいかないという場所があったりするんですね。現実に行くとそういう問題が出てきたということで、目標を達成できなかったという個別事情があったりしますので、だから、当初、これでいきたいなと思っていても、具体的な工事を進めていったら、そういうわけにはいかなかったなという現実がありましたという表現がこれなんですけれども、ちょっと表現がまずくて、単に計画が甘かったんじゃないかみたいなニュアンスになってしまうので、このあたり、現実に沿った表現に変えさせていただきたいと思います。

○会長 この部分に関しましては、委員Aさんからのご指摘のように、まず、

環境配慮率という言葉がわからないというのと、それと、先ほど副会長様からのご意見のように、高く設定していたために、つまり、分母を取りかえればいいんだというふうに聞こえてしまうということと、あともう1点が、足してまぜて平均すれば8割以上なんだからいいんだというふうな、三重に誤解される可能性があるのです。確かに定量的な目標を掲げたときに、現実にはそういかないということが多いということは十分理解できますので、この説明の仕方をもう少し工夫していただければと思います。よろしくお願いたします。

○事務局C より環境マネジメントシステムの本来の目的がご理解いただけるような表現に変えていきたいと思ひます。

○会 長 お願いたします。

委員Eさん。

○委員E 各部環境配慮率というのは、事前に目標として決めたやつなんですね。

○事務局C 年度当初に目標として。

○委員E この数字が高ければ高いほど目標が達成しないんですね。ここで見ると、土木部が85.6%、達成できていない。それから水道部が85.3%、達成できていない。産業振興部は66.7%やから悠々と達成できると。そんなような格好になって、これは最初の目標の設定の仕方にかなり問題があるんじゃないですか、途中の経過として道路工事がどうやったとかいうことがあったとしても。

○会 長 多分、これはご説明いただくと非常に長くなってしまふと思ひますので、そもそも配慮率というのがわからないというところが問題だと思ひますので、そこのところからもう少し工夫をお願いたします。

○事務局C そうですね。各部が担っている工事では、現在のところ、望み得る環境配慮をしようとする、このパーセントが望み得るものですよと。ですから、環境配慮率とは何か、どういうことに配慮しているのかをきちんと説明していれば、このあたりの数字もご理解いただけることになるのかなと思ひますので、最初、委員Aさんにご指摘いただきましたように、環境配慮率そのものの説明とか仕組みなんかをきちんと記載するようになりたいと思ひます。

○会 長 おそらくここは事務局とか行政の方だけしかわからない情報になって

いると思いますので、こうやって公表する限り、市民の方にもわかりやすく説明していただければと思います。これはほんとうに改善がかなり要求される場所だと思いますので、よろしく願いいたします。

マネジメントシステムのところはよろしいでしょうか。

委員Cさん。

○委員 C 13ページの「エコオフィス 平成20年度の実施結果」という表の中で、※1というのが2カ所出ていて、それを参照する、下に「燃費12.6」と「1世帯あたりの」というところで、この※1が、どちらがどちらに対応しているのかというのをお聞きしたいんですけども、よろしいですか。

○会長 よろしく願いします。これは1とか2とか書けば済む話だと思うんですが。

○委員 C 内容もちょっと理解できないところがあるんです。特に上側のほうが、書かれている詳細がちょっと私は理解できないんですけども。

○事務局 C 申しわけありません。そのあたり、どの※印に対応しているのかを、表現をきちんとさせていただくのと同時に、このあたりのわかりにくいところご指摘の表現を工夫するようにいたします。

○会長 つまり、欄外の説明と表の表現が一致するようにちゃんとしてほしいということです。

では、ちょっと一遍になってしまうわけなんですけど、23ページまでで何かご意見がございましたら。

委員Fさん。

○委員 F 地球温暖化対策実行計画、いろいろ数字が載っていますよね。

○会長 何ページですか？

○委員 F 19ページ。温室効果ガスの排出量がどうなったというのが載っていますよね。これはすべてこれからの表は明石市役所のことが載っておるわけです。

○会長 そうですね。市からと書いてあるから。

○委員 F 私は大分前からこのレポートというのは明石市のことを言うべきで、市役所のレポートじゃないと。市役所というのはごく一部ですから、そういうことを盛んに言っているわけです。

それで、事務局の方もかなりかわっておるので、私がずっと前から言ってきたことが理解されていないと思うのでもう一遍言いますと、例えば、会長もよく知っておられるように、兵庫県のレポートを見ると、住民とか工場とかが、こういうことで、CO₂がどうなって減った、増えたとか、それはどういうことが原因とか皆書いてあるわけです。

明石市も、一遍回答を聞いたら、個人情報に関するところでそういうのはできないということだったんですが、関西電力なんかのデータを見てみると、あるいは明石市の年報を見ると、工場とか住民の電気の使用料がどうなったかというのが書いてあるわけです。人口も書いてあるわけで、何かの時点で、やっぱり明石市全体のレポートにすべきやと私は思うんです。これはあくまでも明石市の市役所のレポートです。だから、一般の人が見たらおかしいと思うんです。

それと、もう1つ、例えば自然エネルギーなどは、兵庫県で今、盛んに太陽光発電を普及することに一生懸命になっておるわけです。それが一言も書いていないわけです。それで、2008年までで2万8,900件になっており、それを2010年の2年後には4万件にするには、どういふことをするということが書いてあります。そういうことが全然ないです。だから、今さらこれを変えることはできないけれども、あくまでも、順次、明石市全体の環境がどうなっておるかということを書くべきだと。兵庫県のレポートを見てもそうなっております。そういうふうには私は思うんですが。

以上、これは意見です。

○会長 ありがとうございます。つまり、19ページのところが、この表の上にありますように、明石市役所の事務事業から出たというふうになっていて、これは市役所の取り組みであって、住民とかを含む市民全体の、市全体の報告ではないので、市役所だけじゃなく、市全体の住民とか産業とか全部含んだ表を出すべきだというご意見ですね。

それと、自然エネルギーなどのことも、ほんとうにこれからの方向としてそういうことが書いていないというのは問題かも知れませんが、これは20年度の年次報告書なので、新しい取り組みにつきまして、今年度に入ってから話題になったことはちょっと入れにくいということは

あると思うんですけれども。

事務局から、市役所だけじゃなく、市全体のということについてはいかがでしょうか。

○事務局C 今現在私どもで持っております「明石市地球温暖化対策実行計画」といいますのは、法律によりまして、市役所が行っている仕事から出る温室効果ガスの量を管理して減らしなさいということを法的に求められておりまして、そのためにつくりました計画なんですね。ですから、この計画においては市役所からの温室効果ガスはこれだけで、こういうふうな努力によってこれだけ減らしましたよと。この計画の効果はこれだけ上がりましたという報告をこの中でさせていただいているわけございまして、実際、また地球温暖化対策の推進に関する法律が昨年改正されまして、市役所だけではなくて、市全域、市民生活も事業所の活動も全部含めた上で温室効果ガスを把握して、削減のための施策を講じなさいとなりました。ですから、その計画が来年度策定の予定ですので、数字そのもの、どれだけ明石市内から温室効果ガスが排出されているかということについては今年度把握する予定なんですけれども、具体的にそういう市全体からの温室効果ガスを把握して削減する計画は平成22年度中に策定いたしまして、平成23年度に実行に着手いたしますので、環境レポートの中でそういう数字が上がってくるのはそれからになるのかなと思います。

また、今年度中に明石市域から排出される温室効果ガスの排出量を把握、この把握がかなり難しいわけなんですけれども、国もその把握のためのマニュアルを確定して自治体に配ったのがやっと先月、7月のことだったんですね。ちょっと技術的に難しいことはいっぱいあるんですけれども、把握いたしまして、現在の明石市の排出状況はこういうのですよというのを何か数字としてレポートの中に盛り込めたらいいなというふうには考えます。

それと、自然エネルギーの導入とか、そういうふうな計画につきましても、明石市として温室効果ガスの削減にどういうふうに取り組んでいくのかという計画を来年度つくりますが、その中で、いろいろスケジュールを立てたりとか、施策を組み立てていくことになるのかなと。その

中で盛り込まれて、また皆さんにご報告させていただくことになるのかなと思います。

環境部としましては、新エネルギーにどんどん取り組んでいきたいという意向は持っているんですけども、やはり、市の財政状況ですとか、そういうことを勘案した上で取り組まないといけないことがありますし、また、計画を立てて、その計画にのっとって進めていくべき施策ということもありますので、今のところ、そのことについて、レポートの中でこういうことをやりますということはまだお出しすることはできない状況です。

○会 長 このレポートの性質が方向性を言うものではないので、あくまで報告書なので、あまり抽象的なことは言いにくいということがありますので、今後の方向などにつきましては、別の計画書などで明記したほうがいいのではないかなと思うんですが。しかし、市全体の温室効果ガスの排出量などは他市でもちゃんと出しているところもありますので、やってできないことはない。やはり、市民の努力とかいうのがわかるような方向性で頑張っていたきたいと思います。

委員 E さん。

○委 員 E さっき言われた平成20年6月の法改正にのっとると、来年度のレポートの中にはそういう格好で明石市全体のものを含めた数字を出すことになるんですね。

○事務局 C やはり、こういうレポートをお出しするという事は、先ほど委員 F さんもおっしゃられたように、市の状況はこういう状況ですよというのを皆さんにお伝えする役割もあるかなと思いますので。今年度、明石市域全体の活動の中から出る温室効果ガスの量の把握を行う予定ですので、来年度のレポートには明石市はこれだけの温室効果ガスを出しているんですよという数字的なものを報告するのはできると思います。ですから、その状況をお伝えするという事でレポートには盛り込めたらいいかなと思います。

○委 員 E ぜひお願いしたいと思うんですが、実は、地球温暖化対策の啓発活動、21ページ、これに、ブラックイルミネーションとかエコロジーミュージカル、あかし打ち水大作戦、こういうイベントが出ているんですが、

明石市には地球温暖化防止活動推進員が10名おるわけです。その人らもこういう活動にほんとうは積極的に参加したいし、しているんですけども、この年次報告書に書かれて、そういうものをもっと訴えられて、明石市にはそういう活動をしている人がおるんだよということで、その人たちの活動がしやすいように持って行ってほしいなと思います。だから、この中には、前のときには入っていたんですけども、当然、地球温暖化防止活動推進員が協力したということも、入れておいてほしかったです。

○会 長 つまり、市役所だけの取り組みじゃなく、もっと市全体としての効果とか目標とかが読み取れるような書き方にしてほしいということですよ。

○委 員 E 特にこの啓発活動については外向きですからね。

○会 長 そうですね。ぜひ、そういうふうな、市民を巻き込んだ感じに、わかるように、少し加えていただくなり、改善していただくなりしていただければと思います。

委員 I さん。

○委 員 I ページは違うんですけど、17ページ、18ページにも自然環境再生への取り組みというのが書いてあるんですけども、皆さんいろいろされているんですけども、あまり具体性がなくて、「こういう取り組みをしていますよ」みたいなトーンでみんな終わってしまして、せっかく市民の皆さんがいろいろ取り組んでおられるんですから、そういうことをもうちょっと具体的にお書きになったら、読まれた市民の方も、「そしたら、それを手伝ってみようか」という意識づけになってくるのではないかなという気がするんですけども。

これは、前の4章、リーディングプロジェクトのほうは取り組み状況なので細かく書かれていて、こちらは取り組みなのでもう一つ具体性がないのか、その辺はトーンの違いがよくわかりませんが、そういう意思が働いているのかどうかよくわかりませんが、書けるのであればもうちょっと具体的に書いていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

○会 長 この辺が難しいところで、詳しく書き過ぎるとだれも読まない。で

すから、写真をぜひ入れてほしいと、どこの審議会でもそうなるんですけども。あんまり書き過ぎると、具体的に細かくなり過ぎるとまた市民と遊離してしまうというところもあるんですが、おっしゃるように、せっかく活動されていることがもう少しわかるように、ほんとうに、もう二、三行でも具体的に書いていただければと思います。

○事務局C そうですね。そのあたり、より具体性を持たせるといいますか、何をやっているのかがイメージとして伝わりやすいようにちょっと工夫をしたいと思います。また、こういう活動に参加するにはどうしたらいいのかなということも、そういう情報も盛り込めたらなと思います。

○会長 そうですね。市役所のマネジメントシステム以下のところが、「市役所」というのがすごく出過ぎているので、あとのところが市民がそっちのけになっているという感じを受けるので、もう少し市民がちゃんと活動しているということによって、この報告書をきっかけにもう少し輪を広げるということを意識できるようなことを書いていただけたらなと。

○事務局C そうですね。アクションへの参加の方法とか、アクセスの方法とか、ちょっと触れるようにして、こういうことならできるかなと思われた方の手引き的になるような、そういう文言も入れていきたいと思います。

○会長 よろしくお願いします。

○副会長 全体の構成のことなんですけれども、よろしいですか。先ほども市民がかかわっている部分と、それから、市役所だけでやっている部分がちょっと混在しているところがありまして、今おっしゃった自然環境再生は市民が中心になってやっておられると思います。それから、リーディングプロジェクトももちろんやっておられます。流れとしては、この後に自然環境再生の話が来て、だんだんと市役所ではこういうことをやっていますという話があって、最終的には、最終のところはその事業評価というのがある話があって、流れとしては、市民が読みやすいものからだんだんと市役所の取り組みというふうに行ったほうが読んで人はわかりやすいし、また、市民はそのほうが読みやすいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○会長 私も同じことを思います。事業評価表と市役所の取り組みというのがセットになっていないと、遊離していると、1回戻ってまたという感じ

がするので、最後の事業評価表と市役所の取り組みというのをくっつけて、後ろのほうに持っていったほうがいいのではないかと思いますね。

○事務局 C そうですね。そういう構成に変えさせていただきまして、より見やすくとか、市民はこういうことをしていて、市役所はこういうことをしているのかというのがきちんと伝わるように章立てを変えさせていただこうと思います。

○会 長 よろしく願いいたします。

委員 E さん。

○委員 E 17、18 ページ、これは今の生物多様性戦略、自然環境部会の活動に関連するやつと思うんですが、これはヘディングが上のほうに、欄外に「自然環境再生への取り組み」と書いてあって、いきなりこういう項目が出てくるけれども、間に1行か2行、説明を入れるべきじゃないですか。

○会 長 そうですね。ちょっと唐突ですね。

委員 E さんがおっしゃるように、自然環境再生の取り組みとして、いきなり「明石の自然歩き隊」の発行とかとぼーんと出てくるので、何なのかなという感じは確かに受けますね。ですから、ここから先、何が書いてあるのかという説明を二、三行でも入れていただければと。

○事務局 C そうですね。そもそも自然環境の再生の取り組みって一体何なののかとか、どういう考えでやっているのかとか、そのあたり、具体事例とタイトルをつなぐような説明を入れるようにいたします。

○会 長 お願いいたします。

委員 H さん。

○委員 H 済みません、簡単に3点言わせていただきます。

17 ページの里山の写真なんですけれども、私たち、もう少し楽しく取り組んでいる写真がたくさんありますので、市民の方がやってみたいなと思うような写真を使っただけだったらと思っています。

それから、21 ページの「あかし打ち水大作戦」の1行目の文章なんですけれども、1つの文章の中に「取り組みの一つとして」、また、最後に「紹介する取り組みです」というふうに「取り組み」の言葉が2つ入っておりますので、最後、「『打ち水』を紹介しました」とか、そういう

形に変えられてはどうかと思いました。

それと、下の打ち水の中の点々の中に打ち水効果のことを書いてくださっているんですけども、実際に私は、この打ち水大作戦に参加させていただきまして、実際にそのときの気温、地表温度をはかって、打ち水した後の気温、地表温度の変化というのをきちっとデータで出だされていまして、それなんかを書かれると、より市民の方も「こんなに効果があるんだな」ということがわかりやすくていいのではないかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。

17ページの里山の写真はほんとうに重要で、市民の方はまず写真から入るので、できればこういうヘルメットをかぶった方の作業という感じではなく、もう少し楽しい感じの写真に変えればどうかと。これもご検討いただきたいと思います。

○事務局C 済みません。実は私も、何で工事のおじさんがここで写っているのかなと思いました。これは適切な写真に差しかえさせていただきます。

あと、「取り組み」という言葉のダブリも変えさせていただきます。

あと、具体的なデータを、小さな表でもいいので書いて、数字として皆さんがイメージしていただけるようにしたいと思います。

○会長 特に、打ち水はだれでもできるので、定量的な効果を書いていただいたほうが、「そんなに効果があるのならやってみよう」と思われると思いますので、ぜひ定量的な効果を入れていただければと思います。

ちょっと時間の関係もありまして、最後の23ページからの事業評価表というところに行きたいと思うんですけども、皆様のご意見を伺いたいのは、○とか◎とか△とか、そういう表現が市民の皆様にご理解いただくのに、これでいいのかということですね。他の都市では矢印で上がったとか下がったとか、平行線でやっているところもありますし、いろいろなんですけど、これでいいじゃないかといえばこれでいいと思いますし、もっといい方法があれば、もしご意見がございましたらご提案いただいたらと思います。いかがでしょうか。

○副会長 今現状のこの採点のことで意見をしたいんですけども、3点、2点、1点、0点というのがあるんですけども、この点数というのがどうい

う意味がよくわからないですね。3点というのは何か見ている人にとって意味があるのか。大変よくできたとか、今年はだめだったとか、これは努力しないといけない、何かそういうわかりやすい表現に直したほうがいいのではないかと。3、2、1、0というその意味が。

○事務局C 実は、それは内部で話し合いをしているときにも、「これは意味があるのかな」と言われまして、副会長さんがおっしゃられましたように、「この点数は何の意味があるのかな」みたいなのが出ましたので、もっとよりわかりやすい方法に変えたいと思います。

また、矢印で表現するのがいいのかなとかいうこともあるんですけども、これにつきまして、環境マネジメントシステムをどういう方向でやっていくかという会議が庁内にありますので、その中で諮って、より適切な表現としてこういうのはいかがですかというのをまた内部で検討していただいたりとかいうのもありますので、ちょっとそういうふうな検討を行いたいと思います。ですから、達成度の表現については我々の内部での検討課題ということで預からせていただけたらなと思います。

○会長 そうですね。ほんとうにこの評価そのものは定量的だったり、定性的だったりするわけですから、これはなかなか難しいし、自己評価なんですけれども、ほんとうに、3、2、1というのが10、5、0とかと違うのかどうかということもありますので、数値での表現はやめたほうがいいのではないかなと思いますので、その辺、ご検討いただいたらと思います。

○事務局C そうですね。そのあたり、内部でも話が出ましたので、これも変えさせていただきますたいなと思います。

○会長 では、このレポートについてはよろしいでしょうか。もし、特にということがあるらば。

委員Hさん。

○委員H 多分間違いだと思うんですけども、28ページの31番の「貴重な動植物の生息・生育地、樹木・樹林の保護指定」のところにエネルギーに関するプロジェクトが上がっておりますので、これはもしかしたら自然に関するプロジェクトと間違っておられるのかなと思いましたので、ご確認をお願いします。

○会 長 エコドライブとか。

○事務局C ごめんなさい。我々の編集上の間違いでございます。

○会 長 では、このところも修正をお願いいたします。

○副 会 長 もう1回3ページに戻りまして、推進体制のところなんですけれども、これは新たにつけ加えられたと。このレポートの内容について、どこに何が書いてあるかというのが示してあるんですけれども、例えば環境マネジメントシステムというのが市民と行政の連携の矢印の間にあるんですが、これ自身は行政だけの話ではないかと。自然環境再生への取り組みというのが右側に来ていますけれども、行政と事業者との間の関係ではないわけですね。これがむしろ、市民と行政の間、左のほうに来ないといけないと。ちょっと、3章から7章に書いてある項目が、この図のどこに持っていくのが一番適切なのか、もう1回検討いただけたらなということが1点と。

それから、この基本計画の中では事業者というのが入っているんですね。この事業者等に関係するようなことが、これをざっと見ていてあまりなかったなと思います。それは今回なくてもいいんですけれども、本来、何かそういう企画をしないと、この計画の中からそれが漏れているのではないかということをし少し思いましたので、ご意見させていただきます。

○会 長 先ほど、章立てでも変更されるということでしたので、章の変更とともに、この3ページの図で、市役所中心に書かれているという感じが確かにありますね。ですから、もう少し市民中心にこの図も書きかえていただいて、より多くの市民に読んでいただくということを目的としているわけですので、この図全体も章立てとともにもう少し見直していただいて、ご検討いただきたいということ、事業者が確かにこの報告書の中で薄いんですね。ですから、もう期間もないことですし、今、それがまたどういう事業を持ってくるのかとかは、非常に難しいことですので、すぐにはできないと思いますが、次年度の報告書ではぜひ事業者の取り組みももう少し入れていただけたらと。

○事務局C そうですね。3ページの図につきましては、ご指摘のように工夫させていただきたいと思います。また、事業者の取り組みについては、ずっ

と以前からも課題になっていることがありまして、こういう事業者がこういう取り組みをしています、市と事業者でこういうことをやりましたよと、その市と事業者でこういうことをやりましたよというところがまだ希薄なところがあります。また、事業者はこういう取り組みをしていますよという特定の事業者の取り組みを紹介するのは、これで取り上げるのは役所としてはなかなか難しいところもあるんですけども、ただ、これからの計画、新しい温暖化の対策の計画の中では事業者を巻き込んだ取り組みとかが必然的になってまいりますので、計画ができて、そういう取り組みが始まっていけば、より事業者のページなり、取り組みのイメージなりがもっと出てくるのかなと思います。ちょっと我々の課題でもあるところですよ。

○会長 委員Eさんと委員Fさんのご意見からもありましたように、市役所だけじゃなく全体にというお話があったわけなんですけど、そういう改善をされるときに、ぜひ温室効果ガスの話とともに事業者の取り組みも何らかの形で次回以降取り上げていただくようにこちらから要望させていただきたいと思います。

では、時間の関係もありまして、環境レポートの議題につきましてはここまでにさせていただきたいと思います。

続きまして、4番目の自然環境部会の活動報告につきまして、資料3をごらんください。

資料3というのが1枚物なんですけど、これにつきまして、自然部会長でいらっしゃいます委員Aさんよりご報告をお願いいたします。

○委員A（部会長） それでは、自然環境部会で現在取り組んでいることを簡潔に報告したいと思います。

平成20年度までの明石市の自然環境の調査結果がまとまりました。その成果を受けて今後の自然環境保全の方向を議論しようということで検討を進めてきたわけですが、「生物多様性明石戦略」というものをつくろうじゃないかという結論になりました。これは、実は昨年、国会で生物多様性基本法というのが成立しまして、すべての自治体で、行政で、生物多様性戦略をつくれという方向が打ち出されたわけですが、実際には幾つかの県レベルでやっているわけで、まだ市町村レベルでこういう

ことをやっている例というのはほとんどないんですが、明石市はその先駆けとなろうじゃないかという志を持って、「生物多様性明石戦略」と、これは仮称ですけれども、そういうものを検討しようとしています。

現在まで、今年度はまだ2回しか部会を開催していませんが、その中で、戦略策定をどういうふうに進めていくのか、実際にどういう構成にするのかということ、兵庫県の生物多様性戦略ですとか、国家戦略とか、そういうものを参考にしながら大きな枠組みをつくりました。その内容については今後さらに検討が加えられていくんでしょうけれども、やはり、明石らしいというか、明石にユニークな生物多様性戦略でなければならないというので、明石の自然でほんとうにこれから守っていくべき貴重な自然というのはどういうものだろうかということ、議論を進めようということで、実はきょう、この審議会の前にやったんですけれども、明石市でぜひこういう場所なり、こういう特徴を持った自然というのは貴重だから、そういうところを明石市として守っていくべき自然として抽出しようということで、七、八カ所選んで、それを、いわば生物多様性戦略の1つの明石らしい中心に据えようかというところまで進んでいます。

この後、生物多様性を守るためには、絶滅危惧種の保全の問題ですとか、それと、明石の場合は外来種が非常に問題になっています。そういうものについてどういうふうに対応していくのか。こういう貴重な自然を守ろうという方向を打ち出しても、じゃ、どういう課題があって、どうやって守っていくのかということが問題になります。そういうことを、さらに議論を進めまして、戦略（案）というのを来年の春ごろまでに取りまとめたいと。その後、パブコメをして、この場で報告させていただきたいという段取りで現在議論が進んでおります。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

ほんとうに大変な、これもものすごく莫大な大きなテーマで、ほんとうにご苦勞していただいているわけなんです、こちらにご出席の委員の皆様で、同時に部会の委員の皆様もいらっしゃるわけで、先ほど部会があったばかりなんです、部会をご存じでない方にもう少し何かつけ

加えることとかがございましたら。あるいは、質問とかご意見とかがございましたらよろしくお願ひいたします。

委員 B さん。

○委員 B 私、環境保全団体から環境審議委員に入っている者なんですけれども、この環境基本計画ができる第 1 回目からこの会には参加させていただいているんですけれども、ちょっと耳の痛いことを言わせていただくんですけれども、市議員さん、市長さんも列席されたこともあるんですけれども、じゃ、我々自然保護の団体が言っている明石の守るべきもの、そういう地域であるとか動植物とか、それは一体どんなものなのかと、現状を一遍見てみようという動きはいまだかつて一度もないと。ですから、総論は賛成なんだと。自然は大事だ、守りたい、明石もどうもいいところだと思う、自分もそうだと思うと。

では、我々が主張しているオニバスであるとか、アンペライであるとか、ガガブタであるとか、そういうものはどこにどのようにしてあるのかというのを見ていただく機会とか、またそういう発言がなかったということですね。ですから、できたら、せつかく自然についても考えていくと。ですから、エネルギー問題とかごみ問題とか、そういうことも大事なんだろうけれども、そういうものの実施、または実際の活動も大事だと思うんですけれども、今、明石で守るべきものは何かということをやっぱり具体的に目で見たいと。何を我々のような団体がうるさく言っているのかということをやっぱり見ていただかなければわからないんじゃないかと。

ですから、市の重立った役員の方も、幸いなのは、今回、環境部長さんは、我々とかなり前からいろんな会議のときに同行していただいていますから、理解のある方が部長さんになられたんですけれども、今まで市議会の役員さんも多々来られていますけれども、一度として、「一遍その植物が一体何たるものかを見たい」と言われたことはない。これは見識の問題だと思うんです。

ですから、これはオフレコにしたいですけれども、加西市であるとか、その他の市で我々は環境のイベントをしますと、市長さんが実際に来られて、そういうところを見て回られるということもあります。そういう

のが明石市ではないんじゃないかと。そのわりには明石市の持っている自然遺産、先ほど出ましたけれども、そのもの自体は、限られた場所に限られたものがわずかしかないという現状をこの場で主張しておきたいと思います。

○会長 ありがとうございます。

ほんとうに自然とか、保全とか、多様性とか、生物とか、全部キーワードとしてはみんな大賛成なんですけれども、じゃ、具体的に知っているのかというと、市長さんをはじめ行政の方、議員の方、非常に抽象的な議論はできるんですけども、実際に足を運んでごらんいただくとか、そういう機会が少ないんじゃないかというご意見ですね。ですから、実際にこういうふうな、ものすごく莫大なテーマでばく進されるわけですから、ぜひほんとうに足を運んで幹部の方も見ていただきたいと。ほんとうに明石は自然豊かというのはみんな知っているんですけども、その具体的な内容というのは案外知らないんですよ。

それと、先ほどの部会を私も傍聴させていただいたわけなんですけれども、やはり、一口に多様性と言っても、ほんとうにこれは難しいテーマを扱っているんだなということをしみじみ感じたわけなんです。何か部会の皆様でほかに、先ほどの貴重な鋭いご意見のように、ここで一言というのがございましたら、ぜひご発言いただきたいと思います。

委員Hさん。

○委員 H 私自身も市民の立場としてこの環境基本計画、新たにつくり直すときに意識をしてリーディングプロジェクト8というのを立ち上げさせていただいたんですけども、先ほど委員Bさんがおっしゃるように、まず保護を急ぐ場所、それから保全すべき場所、それからまた、再生していかないといけない場所というのをきちっと分けてやっていく必要があるということで、その辺は行政と一緒にやらないとなかなか難しいんですけども、そのために、まず市民、今、皆さんは自然を知らないとおっしゃいましたけれども、市民の人と同じなんですよね。市民の人にも知っていただきたいということで「明石の自然歩き隊」というのをしまして、3ルート歩いたのですが、知っているつもりの私たちでも、歩いて初めてわかることがたくさんありました。それをただ歩いただけ

で終わらせないために、こういう冊子をつくらせてもらって、多くの方に知っていただくということを今取り組んでいます。こういうことを続けていきたいというのもありますし、多分、委員Bさん、言われたかったけど言われなかったのは、ここの審議会の先生方も一度バスか何かに乗っていただいて見学に行っていたら、生物多様性戦略を策定していく上でもすごく伝わりやすいのかなと思っていますので、もしそういうことが可能であればご検討いただけると私もうれしいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○会 長 ほんとうにおっしゃるとおりで、非常に個人的なことになって申しわけないんですが、川西市の黒川地区が日本一の里山、委員Gさんがおっしゃったわけですが、あれが兵庫県民のほとんどが知らないということなんです。それで、今、日本一の里山ということでネットで検索すると必ず黒川地区が出てくるので、私も行ってみたんですが、足を運ばないとわからないと、私も個人的に思いました。

明石は自然が豊かなところというのは日本全国の方が知っているんですけども、具体的にはわかっていない。そういう、目で見て、足を運ぶということが少ないと思いますので、ぜひそういう機会を増やしたらいいと思いますね。

余計な話なんですけど、川西市の審議会の委員でさえ日本一の里山・黒川地区というのを知らなかったという、そういう実態がありまして、そのルーツが何かということをつたっていくと、委員Gさんがそういうことを指摘されたということで有名になったという話を私も初めてこの前知りまして、灯台もと暗しというか、自分がいるすぐ近くに日本一のところがあるのにわからないと。明石も日本一自然豊かなところだと思うんですが、そういうことをもっと自覚できるような仕掛けをつくらないといけないと思います。

委員Gさん、何かございますか。

○委員 G あちこちで日本一を大分つくってきたんですけども、明石の場合は日本一のため池群、これはやっぱりもっと打ち出して出さなきゃいけないんじゃないかと思います。

兵庫県は今、県は生物多様性が終わったんですけども、今、市レベ

ルで動いているのが、西宮市と神戸市と豊岡市、それから明石市ということに今動いています。できたら、とにかく明石が一番でつくっていただきたいと思います。

○会長 何か一番というと、急に市民も自信を持つようですので、明石もぜひ日本一で何かアピールしていただければと思います。

同時に、部会長さん、委員Gさん、ほんとうに日本有数の、こういう部会の委員の皆様もほんとうに貴重な活動をしていらっしゃる、人的資源もこれだけ豊富なのに、明石市の自然というのをもっとPRして、市民にも自信を持っていただく、そういうものがちょっと薄いというのが残念な感じもします。そういう点でももう少し前向きに進めていただければと思います。

何かほかにこの自然部会の活動につきまして。

○委員D 知ってもらふことにプラスして、もう少し欲を出してお願いしたいんですが、この明石の自然というのは、住んでいる私たちがかかわってできてきた自然なので、この多様性戦略の目標としては、やっぱり地域の人たちが自分たちの地域に根づいて、昔はもっと根づいていたんですけども、またもう一度根づいて、地域の環境に責任を持つ姿勢というのをつくっていかないと守れない自然だと思っていますので、そういう部分もアピールしていきたいなと思っていますし、していただきたいな、ご理解をいただきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

○会長 そうですね。ほんとうに委員Dさんがおっしゃったように、野放しじゃなく、ある程度管理していかないと保全できないということがありますので、そういう意識も持たないといけないのではないかとことです。ありがとうございました。

ほかに何か自然部会につきまして。よろしいでしょうか。

では、このテーマにつきましてはこれで終わらしまして、その他につきまして、何か事務局からありましたらよろしくお願ひいたします。

○事務局C 事務局です。

その他のところなんですけれども、審議会、実は年度内はあと1回、2月の下旬、または3月の初めぐらいに予定させていただいているんですけれども、本審議会の委員さんの任期が平成22年1月末までの2年

ということで、新たに委嘱する委員さんの方々につきまして委嘱状を出させていただくという審議会を年度内に1回開かせていただく予定です。

ですから、今回ご審議いただきました年次報告書につきましては、また案としてお出しただいて、皆さんにまたお配りさせていただいて、ご意見等をまたいただきたいと思っておりますけれども、実質的にご審議いただく審議会につきましては、年度内は今回のみ。あと1回は委嘱状の手渡しをさせていただいて、委嘱させていただくという審議会になります。

自然環境部会につきましては、引き続き、生物多様性戦略の策定がございしますので、何回か開かれます。

そのような予定で審議会、年度内は進めさせていただきたいと思いません。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

では、2時間弱で、非常に貴重なご意見をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。

では、これにて本審議会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

○事務局B ありがとうございます。

きょうは、この審議会を開かせていただきまして、我々のほうも「環境レポート2009(素案)」というのを作成する上でいろいろと苦勞もしてきているわけでございますけれども、きょう審議会を開催させていただきまして、各委員の皆様方から適切なご意見をいただきました。また、そのご意見を生かしまして、この環境レポートにつきましてはよりよいものに仕上げていきたいと思っております。

本日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

(閉会 午後4時45分)